南張富士講帳簿の翻刻と解説

簡単な解説をおこなうものである。する資料群「南張富士講書類」のうち、「(南張富士講帳簿)」を翻刻にて紹介し、南張富士講と表記)について、元講員のお宅に残されていた南張富士講に関係本稿は、三重県志摩市浜島町南張地区において組織されていた富士講(以下

発に活動していた。 発に活動していた。 な、大鏡坊・辻之坊・池西坊の村山三坊を中心とする修験者(村山修験)が活め、大鏡坊・辻之坊・池西坊の村山三坊を中心とする修験者(村山修験)が活め、大鏡坊・辻之坊・池西坊の村山三坊を中心とする修験者(村山修験)が活め、大鏡坊・辻之坊・池西坊の村山三坊を中心とする修験者(村山修験)が活め、大鏡坊・辻之坊・池西坊の地に、大鏡坊・辻之坊・池田では、登山で、大鏡坊・辻之坊・池田では、一巻に活動していた。

二○○五:九三)。

二○○五:九三)。

二○○五:九三)。

二○○五:九三)。

二○○五:九三)。

二○○五:九三)。

二○○五:九三)。

二○○五:九三)。

二○○五:九三)。

所で村山を拠点とする富士講は衰退することとなった。

が設けられた。それとともに、先達を中心とする富士講が組織され、富さん」が設けられた。それとともに、先達を中心とする富士講が組織され、富士山への参詣や富士垢離(参詣前の精進潔斎であるとともに、地域によっては、土山への参詣や富士垢離(参詣前の精進潔斎であるとともに、地域によっては、立つのが職のみで参詣と同様の利益を得ることができるとされた)の行事が盛んに行われた。その後、明治の神道化政策・修験道禁止等により、多くの場がで村山を拠点とする富士講は衰退することとなった。

近離を行っている場所や、行事自体は途絶えてしまったものの、富士講に関わしかしながら、三重県の伊勢・志摩地方では現在でも富士山への参詣や富士

井上 卓哉

ことを検討する必要がある。
ことを検討する必要がある。
ことを検討する必要がある。
ことを検討する必要がある。
ことを検討する必要がある。
ことを検討する必要がある。
ことを検討する必要がある。
ことを検討する必要がある。

とを確認した。 徳林寺という寺院の住職から講のメンバーへ譲られたもの) 浜島町南張地区である。南張の人々による富士参詣の記録として、 摩地域における富士講に関わる調査を実施した。その一つが、三重県志摩市 士講書類」一三二点や、 とともに、 張では日待ちと呼ぶ)については、 おこなっていたことが明らかとなった。また、地元での行事である富士垢離(南 ら当地で富士講が組織され、 道者帳」に、志州南針 (一六八九) における富士山への道者 (参詣者) を記した 『浅間文書纂』、 さらに、 このような問題意識のもとで、 講員の中で引継ぎされてきた南張富士講に関係する史料群 現地での調査の結果、南張富士講では、 国書刊行会、 (張) 富士山を描いた掛軸 の人物四人の名が確認できる(浅間神社社務所編) 富士山への参詣がおこなわれていたようである。 一九七四:五二七)ことから、 平成二七年 (二〇一五) 平成二三年まで行われていたという。 (弘化二年(一八四五)に当地の 昭和五二年まで富士参詣を 「駿州富士大宮本宮 が遺されていたこ 三月に、 江戸時代の初期か 元禄二年 伊 勢 ・ 「南張富 志

(二○○八)までの一一三年間におよぶ講にかかわる様々な事項を書き留めたこの「南張富士講書類」の中には、明治二八年(一八九五)から平成二○年

その記載事項は多岐にわたるが、 資料「(南張富士講帳簿)」(一四五頁・表紙および裏表紙除く)が含まれていた。 ことができる。 大きく分けると以下のような内容に分類する

①講行事 れる富士山への参詣とそれにともなう下向日待) 入歳出に関すること。 (年に一度開催される日待 (定式祭礼) および、 の参加者、 不定期におこな 行事内容、 歳

②講の規約に関すること。

③講のメンバーの加入・脱退に関すること

ば、

明 たのかということを知ることができる。 うな行事をおこなっていたのか、あるいは祭礼でどのような食事が供されてい 内訳が確認できる。 の 治四〇年 明治二八年から平成二〇年までの講の行事にかかわる収入の内訳、 ①についてであるが、 (一九○七) から昭和三年(一九二八) の記録は欠落しているもの 特に、 歳出の内訳とその内容を詳細に見てみると、 南張富士講帳簿の大部分を占める記録であ 歳出の どのよ る

常的な行事における富士山への信仰が次第に薄れていく様子がうかがえる 祭礼への女性の参加者の名前が確認できるなど(一一四頁)、 参拝がおこなわれるようになるほか(九四頁)、 た、 集落の氏神である楠宮八柱神社への参拝のみがおこなわれるようになる。 0) 堂 参拝や水垢離の行事が昭和四年(一九二九) 平成一二年(二〇〇〇)以降には、 宿泊施設へと変遷するとともに、 ②であるが、明治期のものを中心に、講に関わる取り決めが記載され 定式祭礼の開催場所が、講員の中から順番で選ばれた宿本宅から公会 集落内の大日如来を祀る「浅間さん」 氏神への参拝に加えて、 以降実施されないようになり、 平成一九年(二〇〇七)から 南張富士講 伊勢神宮への の日 ま

けていたということを知ることができる(一一八頁から一一九頁)。

二八年(一八九五/乙未)、明治三一年(一八九八/戊戌)、明治四三年(一九一〇 として平成二三年 年以降は、 での講員は古山として日待の宿元を行った後に講を抜けるというシステムを ある(一三三頁から とっていたことがわかる。 への参詣がおこなわれたことが記録されている。 七年(一九四二/壬午)、昭和五二年(一九七七/丁巳)の計七回の富士山 、庚戌)、 大正九年(一九二〇/庚申)、 昭和七年(一九三二/壬申)、 最後に③であるが、 富士山への参詣を終えた講員が新山と呼ばれる新しい集団となり、 参詣を終えた新たなメンバーの加入がなく、この時の参詣者が新山 (二〇一一) まで講を続けたのである。 一四四頁)。 南張富士講のメンバーの加入・脱退についての記録で しかし、 南張富士講帳簿には一一三年間の間 最後の富士山参詣がおこなわれた昭和五二 この加入・脱退の記録を見れ 昭和 明

研究成果の蓄積の一助となるであろう。 を造営した際の記録や、 帳簿が含まれていた資料群には、 取り調査などから具体的に明らかにしていく必要があろう。また、 た記録もあわせて分析することにより、 る分析を進めるとともに、 様々な情報が記載されており、その変容の姿を知ることができる。 ここまで述べてきたように、 江戸時代の年記を持つ各種記録類が含まれる。こうし 南張富士講の変容の背景にあるものについて、 南張富士講帳簿には、 明治六年に南張の大日如来を祀る「浅間さん」 伊勢・志摩地方における富士山信仰の 当地の富士講に関 今後さらな 南張富士講 聞き わ

崎満氏 (鳥羽郷土史会)、 申し上げる。 本稿への掲載を快くお許しいただいた堀尾兵蔵氏、 最後に、 突然の訪問にもかかわらず、 﨑川由美子氏 (志摩市歴史民俗資料館) 聞き取り調査や写真撮影のみならず、 調査に御協力いただいた江 に厚く御礼

翻刻凡例

また、

日

露戦争

が残存していたことがわかる(一二三頁から一二九頁など)。

引き金となる日本とロシアの国交断絶を受けて、定式祭礼の会食を簡素なも

とする取り決めがなされているなど、

講が当時の社会情勢に大きな影響を受

とが求められていたようで、

ている。

特に、

水垢離をともなう日待の行事に関しては、厳しく身を清めるこ

村山の修験者によって広められた富士山信仰の姿

- 内の数字は、 ページ数を示す。
- 解読できない文字については、□で示した。

| 紀 | 要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|---------------|-----------|----------|----------------|-----------------|-----------------|------------------|---------------|-----|------------|------------|--------------|------------|---------------------|-----------|---------------|-------------|--------------------|-------------|---------------------|-----------------|----------|------------|----------|----------------------|----------|--------------|-------------------|---------------------|---------|-------------------|----------|-----------------|
| 一 金貳拾三銭六厘 | 明治二十八年旧五月二十八日 | 正繰越金 | 金貳拾五銭三厘 | 受拂当年残金 | 計金貳円拾銭 | 当番正木安吉、大西政吉両氏二拂 | 右ハ五月晦日日待宿本席料 | 一 金四拾銭 | | | 中村勘□□拂 | 右ハ御幣用半紙廿枚代 | 一金貳銭 | 右酒八升代岩田□□拂 | 一 金壱円六拾八銭 | 同拂之部 | 計 金貳円三拾五銭三厘 | 右ハ揚垢離御幣料及賽銭□□ | 一 金壱円八拾六銭六厘 | 三十七年度精算繰越金 | 一 金四拾八銭七厘 | 廿八年度受之部 | | | 係より | に記帳して下さい | 其の年の祭礼の件この帳簿 | 宿本当番はかならず | | | (記載事項解読できず) 【表 | 乗町女人 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 表紙】 | | |
| 計金壱円参拾三銭五厘 | 右下向日待両度席料 | 一 金四拾銭 | 右該□簿代 | 一 金九銭五厘 | 右酒四升代 | 一 金八拾四銭 | 同拂之部 【五】 | | | 計金壱円三拾三銭九厘 | 弐拾八厘五毛宛報集ス | 右講社中四十四名壱名二付 | 一 金壱円廿五銭四厘 | 右同年五月廿八日過剰金及下向日待賽銭共 | 一 金八銭五厘 | 受之部 | 記 | 同年同月十六日下向日待受拂 | | 壱名二付金七厘五毛宛報集 | 出□古山總人口之廿四名 | 右酒壱升代 | 一 金拾八銭弍厘 | 出迎御酒料受拂記 | 同年旧六月十三日富士登詣下向ニ付 【四】 | | | 明治二十八年舊五月二十八日 | 過剰金 | 残金壱銭七厘 | 受拂計 | こ付酒饌料前借ス | 右同年閏五月二十八日□日待極月 |
| 一 金三銭四毛 | 受ノ部 | 明治三拾年受拂ノ記 | 看料徵集金之過剰 | 疫退散二付願杲之日待酒 | 右ハ明治廿九年六月廿八日當区悪 | 一 金参銭四厘五毛 | 金五銭壱厘過剰金 | 指引廿八年度繰越金者【七】 | | | 計金貳円拾六銭 | 右ハ酒代ニ拂フ | 一 金壱円七拾六銭 | 右ハ五月晦日両宿席料ニ拂フ | 一金四拾銭 | 同拂ノ部 | 計金貳円拾八銭 | 但シ三十八名乃□一人前ニ付壱銭宛ツメ | 右ハ社中ヨリ集メ金 | 一 金三拾八銭 | 右ハ本年御幣料乃賽銭 | 一 金壱円八拾銭 | 右ハ廿八年度繰越金也 | 一 金三銭一厘 | 明治貳拾九年受ノ分【六】 | | | 講臨付日待之際各組ヨリ徴集ノ過剰金 | 右ハ明治廿八年旧九月二十一日悪病除去折 | 一 金弐銭四厘 | 外二壱銭賽銭追加ス | 金四厘 過剰金 | 差引 |
| 拂之部【九】 | | | 御幣料乃賽銭受取 | 右ハ三十壱年度五月廿八乃晦日 | 一 金壱円五拾貳銭五厘 | 計 | 明治三拾年五月三拾日ノ繰越金受取 | 一 金 五厘 | 受ノ部 | 明治参拾壱年受拂之記 | 五厘也 | 差引繰越金 | 六拾壱銭 | 計金壱円 | 両家へ払 | 右ハ晦日日待宿本政吉 十郎 | 一金四拾銭 | 右ハ廿八日ニ要スル紙一丈代拂 | 一 金五銭 | 御酒代拂 | 右ハ五月廿八日晦日両日ニ要スル | 一 金壱円拾六銭 | | | 拂ノ部 | 壱銭四厘四毛 | 計金壱円六拾 | 御幣料乃賽銭受取 | 右ハ三拾年度五月廿八日乃晦日 | 一 壱円拾六銭 | 右ハ総目□割六金一人壱銭四毛宛受取 | 一 金四拾貳銭 | 右ハ廿九年六月ノ繰越金受取 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | -(3) | 南張 | 富士 | 講帳 | 簿の | 翻刻。 | と解詞 | 兑(井 | 上) |
|----------------|--------------|-----------|--------------|-------------|-----------|--------|------------|-------------|--------------|-------|------------|----------------|---------------|--------|--------------|------------------|--------------------|--------------|----------|------------------|-----------|--------------|---------------|--------------|--------------------|-------------|---------------|--------------|-----------------|-----------------|-------------------|----------|-----------|
| 拂之部 | 計金壱円二拾壱銭三厘 | 御幣料及賽銭受取 | 参拾貳年度五月廿八及晦日 | 明治参拾壱年度繰越金及 | 請之部【一〇】 | | | 世壱年旧六月廿一日改メ | 右ハ参拾壱年度残金先送ル | 一 金五厘 | 宿本政吉殿エ呈ス | 當講社ヨリ氣付並ニ席料トシテ | 右ハ下津浦新山下向日待ニ付 | 呈ス | 一 金伍拾銭 席料トシテ | 丗一年旧六月廿一日 | 右ハ下向日待ニ付新山ヨリ政吉殿ニ拂 | 一 金九拾六銭 酒三升代 | 世一年六月廿一日 | 右ハ下向山之迎ニ付古山社中ヨリ拂 | 政治郎殿へ拂 | 一 金六拾四銭 酒貳升代 | 世一年旧六月廿一日 | 之節右之金子酒代エ使用ス | 明治三拾壱年冨士参詣ニ付下向日待 | 一 金四銭五厘 | 差引繰越金 | 明治三拾壱年五月晦日改メ | 鈴木茂平殿へ拂 | 右ハ晦日日待ノ宿本へ席料トシテ | 一金貳拾銭 | 右ハ酒四升代拂 | 一 金壱円貳拾八銭 |
| 一 二 弐円四十銭 酒六升代 | 勘定書 | 五月廿八日 | 明治三十五年 | | | 金二厘過剰金 | 残差引 | 差引不足金一円二拾銭 | 二口〆二円七拾銭二厘五毛 | 両君へ拂 | 正木桶平山本典三郎 | 右ハ晦日之宿本へ席料トシテ | 外二四拾銭 | 銭二厘五毛 | 總合計金貳円参拾 | 右ハ廿八日晦日御酒代六升会社へ拂 | 一 金貳円貳拾八銭 | | | 拂之部 | 計金壱円五拾銭三厘 | 晦日御幣料及賽銭金 | 明治参拾参年度五月廿八日及 | 請之部 | 一 明治三拾二年度ハ繰越金一毛モ無シ | 是ハ西井貞三ヨリ進呈ス | 右ハ酒八寸代堀尾清六殿へ拂 | 一 金壱銭也 | 大西善之輔殿小田彦市殿両家へ拂 | 右ハ晦日日待ノ宿本へ席料トシテ | 一 金四拾銭 | 右酒六升代會社拂 | 一 金壱円九拾八銭 |
| □□藤次郎 | 宿本 岩田市太郎 | 右□過金 | 合計金壱円十五銭九厘也 | 一 金六厘 前年繰越金 | 外二 | 御幣料其他 | 一 金壱円拾五銭参厘 | 勘定書 | 明治三十七年五月廿八日 | 年へ繰越ス | 昨年度ノ過剰金六厘翌 | 右之通り | 橋本初太郎 | 大西善松 | 山本新太郎 | 西井徳平 | 一 金九十九銭 酒二升二合代【一三】 | | | 勘定書 | 五月二十八日 | 明治三十六年 | 翌年へ繰越ス | 金六厘過剰金 | 右之通り | 西井楠二郎 | 中島楠蔵 | 西尾楠太郎 | 岩田楠□ | 〆弐円九十八銭 | 一 十八銭 紙四帳代 | 晦日□二人分 | 一 四十銭 席料 |
| 一金六銭 | 但シ丗八年度ヨリノ繰越金 | 右ハ御造榮ニ付仕拂 | 一 金壱円四拾六銭 | 官田十二雄時典員 | 明治丗九年三月七日 | 翌年へ繰越ス | 右之過金【一五】 | | | 大西善次郎 | 宿本 川面権右衛門 | 右正二過金 | 差引壹円四拾六銭 | 合計六拾九銭 | 一金雑費 | 揚垢離酒代 | 一 金四拾六銭 | 十八日浜垢離日待酒代 | 一 金貳拾参銭 | 支出 | 合計貳円拾五銭九厘 | 前年度繰越金 | 一 金壱円十五銭九厘 | 浜垢離日待地下酒代 | 一 金伍拾銭 | 御幣料 | 内九厘切 | 一 金伍拾銭 | 収入 | 勘定書 | 明治三十八年五月二十八日 【一四】 | | |

| 紀 | 要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|--------------|-----------|---------------|------|---------|-------------|-----------|-----------------|-------------|--------|--------|----------|------------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------------|--------------|------------|-----------|---------------|----------|----------|------------|--------------|-----------|----------|---------|-----------|---------|-----------|
| 計金五円参拾銭也 | 一 金壱円参拾銭也 酒代 | 一 金四円也 魚代 | 信田十二維佛弗貝 | 中島一角 | 宿本 小田静雄 | 昭和五年四月二日 | 計金六圓也 | 一 金一円伍拾銭 (酒一升代) | 一 金四円伍拾銭 魚代 | 富士講費 | | | 中村寛也 | 宿本 岩田謙一 | 昭和四年四月弐日 | 一人割 四拾銭 | 計金五円伍拾銭 | (一升) | 一 金壱円伍拾銭 酒代 | 一 金四円 肴代 | 信日十一 潍畊 弗貝 | 右之通り | | | 諸雑費拂フ | 明治四拾壱年度ニ於テ | 改前年度繰越金を | 岩田市次郎 | 宿本 大西政之? | 明治四拾壹年度 | 右ハ四十年度繰越金 | 一 金六厘五毛 | 右ハ丗九年度繰越金 |
| 堀尾光太郎 | 西井 澄 | 講員 西井幸之助 | 大西善志 | 橋本又司 | 宿本 | 昭和十年四月二日 | | | 川口弥一 | 川面権衛 | 宿本 | 昭和八年四月二日 | 西井隆 | 宿本 西井幸之助 | 昭和七年七月廿九日 | 計四円七拾銭也 | 御酒代 | 一 金壱円参拾銭也 | 魚代 | 一 金参円四拾銭也 | 富士講費(下向日待) | 川口正彦 | 宿本 大西庫司 | 昭和七年四月二日 | 計金参円八銭也 | 七拾八銭也 酒代 | 一 金貳円参拾銭也 魚代 | 富士講費【一八】 | | | 別當正生 | 宿本 川口勇夫 | 昭和六年四月弐日 |
| 酒代 八拾銭也 | 魚代 二円四拾銭也 | 宿本 堀尾郁朗 | 昭和拾三年四月二日 | | | 一 金二円拾銭也 | 講費肴料 | 正木留吉 | 大西楠寿 | 別當純吉 | 西井小一 | 堀尾郁郎 | 小田楠彦 | 堀尾光太郎 | 西井澄 | 講員 西井幸之助 | 宿本 植村厳一 | 昭和拾三年四月二日 | 四円十銭 | 講佛真肴料 | 堀尾光太郎 | 宿本 | 昭和十一年四月二日【二〇】 | | | 講費肴料 | 大西楠寿 | 別当純吉 | 正木畄吉 | 堀尾郁朗 | 西井小一 | 小田楠彦 | 植村厳一 |
| 川口甚一 | 大西善郎 | 定式祭礼 宿本 | 昭和十八年四月二日【二三】 | | | 合計金 六円八十七銭也 | 魚代 四円三十四銭 | 酒代 二円五十三銭 (二軒分) | 講員名拾名 | 同 山本一郎 | 宿本 小田直 | 下向ノ日待 | 昭和十七年七月廿九日 | 酒代 六十九銭 | 魚代 三円五十銭 | 宿本 正木留吉 | 昭和十七年四月二日 | 合計三円二拾銭也 | 酒代 一円二拾銭也 | 魚代 二円也 | 宿本 大西楠寿 | 昭和拾六年四月二日 | | | 酒代 一円三〇銭 | 魚代 三円十銭 | 宿本 別当純吉 | 昭和拾五年四月二日 | (三行墨消し) | 酒代 八拾銭也 | 魚代 二円六拾銭也 | 宿本 小田楠彦 | 昭和拾四年四月二日 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | -(3) | 南張 | 富士 | 講帳 | 簿の | 翻刻。 | と解詞 | 兑(井 | 上) |
|-----------|------------|--------------|------------|-------------|-----------|---------|------------|-------------|------------|------------|-------------------|----------------|--------------------|------------|------------|-------------|--------------|------------|--------------|-----------|--------------|-------------|--------------|--------------|---------|------------|---------------|------------|---------|------------|------------|------------|--------------|
| イ・・ 二円四拾銭 | 合計 四円八拾銭 | 酒代(各五合)宿本ハ除く | 口組 十一名(〃) | イ組 十名 (宿本共) | 講員廿一名 | 口組 別当 博 | 宿本 イ組 杉浦清也 | 定式祭礼 | 昭和貳拾年四月二日 | | | 受入 | 砂糖代 一人当り五銭宛宿本宅□□各自 | ロ・・・・三円八十銭 | イ・・・・三円十銭 | 魚代(肴ノ煮魚代) | ロ・・・・一円六十銭 | イ・・・・一円六十銭 | 合計三円二十銭 | 酒代 (各五合) | 口十一名 | 講員二十一名 イ 十名 | 口 大西守 | 宿本 イ 正木欽一 | 定式祭礼 | 昭和十九年四月二日 | 下向日待ノ魚代十五銭先送リ | 追記 | 右ノ通リ | 計一升代二円十銭 | 酒代各五合 | 川口=十一名 | 講員二十一名 大西=十名 |
| 定式祭礼 | 昭和弐拾参年四月二日 | 一 金壱百円也 | 魚代 口組 (壱貫) | 一 金弐拾壱円伍拾銭也 | 酒代 口組(五合) | 一 金壱百円也 | 魚代 イ組(壱貫) | 一 金弐拾壱円伍拾銭也 | 酒代 イ組(五合) | 口組 九名(〃) | 講員 十九名 イ組 十名(宿本除) | 口組 川口忠良 | 宿本 イ組 植村誠一 | 定式祭礼 | 昭和弐拾弐年四月二日 | | | 口組 四拾円 | イ組 弐拾八円 | 魚代 | 金拾壱円伍拾銭 | 酒代(五合) | 口組 十名 | 講員 十九名 イ組 九名 | 口組 川口徳三 | 宿本 イ組 岩田一夫 | 定式祭礼 | 昭和二十一年四月二日 | 右之通り | ロ・・ 二円七十五銭 | イ・・ 二円五拾銭 | 魚代 五円二十五銭 | 口・・ 二円四拾銭 |
| | 拾名 八名 | イ組口組 | 日待出席人名但宿元共 | 右昭和貳拾参年四月二日 | 川口忠良 | 山本義一 | 大西善郎 ×大西守 | 川口一弥 正木俊一 | 小田直 ×川口甚一 | ×小田保一 山本一郎 | 杉浦清也 別當博 | 正木欽一 中村堪一 | 植村誠一 大西政千代 | 岩田一夫 柳生勝利 | 山本勝三 岩田道男 | 岩田元雄 ×川口徳三 | イ組口組 | 肴代は宿元除く | 右之通 | 一金参百拾円 | 魚代 口組 | | | 一金参百伍拾円 | 酒代 口組 | 一金参百拾円 | 魚代 イ組 | 一金参百五拾円 | 酒代 イ組 | 口組 | 講員 貳拾壱名 イ組 | 口組 正木俊一 | 宿元 イ組 小田保一 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 三六 | | | | | | | | | | | | |
| 昭和弐六年四月二日 | 一金参百五拾円也 | 魚代 | 一金参百弐拾円也 | 口組酒代 | 一金参百五拾円也 | 魚代 | | | 一金三百弐拾円也 | 酒代 (イ組五合) | 口組 // 八名 | 講員拾八名 イ組宿本共 拾名 | 口組 柳生勝敏 | 宿本 イ組 岩田広男 | 定式祭礼 | 昭和弐拾五年四月二日 | 一金四百六拾七円五拾銭也 | 魚代(口組) | 一金参百七拾八銭五拾銭也 | 酒代口組 (五合) | 一金四百六拾七円五拾銭也 | 魚代(イ組) | 一金参百七拾八円五拾銭也 | 酒代(イ組)(五合) | 口組 八名 | (宿本共) | 講員拾八名 イ組 拾名 | (宿本共) | 口組 中村官一 | 宿本 イ組 山本勝三 | 定式祭礼 | 昭和弐拾四年四月弐日 | |
| | | | | | | 三八 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 日七】 | |

| 紀 | 要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|----------|--------------|-------------|-----------------|------------|------------|------------|-----------------|------------|--------------------|----------------|--------------|--------------|-------------|-------------------|----------|------------|-------------|--------------|------------|-----------------|---------------|--------|-------------|--------------|--------------|---------------|----------|------------|-------------|-------------------|--------------|------|
| 植村誠一 | 岩田一夫 | 正木欽一 | 大西善郎 | 杉浦清也 | 小田保太郎 | 小田直 | 講員九名 | い組宿本 小田直宅 | 定式祭礼 | 昭和二十八年四月二日 | 一 茶菓子代 一金九百五十円 | 一 魚代 一金壱阡弐百円 | 一 酒代 一金壱阡三百円 | 講員 十八名 | 宿本 大西政千代君宅 | 定式祭礼 | 昭和二十七年四月二日 | | | 一金 四百円也 | 魚代 | 一金 二百四拾弐円五十銭也 | 酒代 | 口組 | 一金 四百円也 | 魚代 | 一金 弐百四十弐円五十銭也 | 酒代(イ組五合) | 口 八名 | 講員 拾八名 イ 十名 | 口組 岩田道生 | 宿本 イ組 川口一弥 | 定式祭礼 |
| 一金 | 魚代 | 一金 | 酒代 口組 | 一金 弐百拾五円也 | 魚代 | 一金 四百八拾五円也 | 酒代 イ組一升 | 口組九名 | 講員十八名 イ組九名 | 口組 別当博 | 宿本 イ組 杉浦清也 | 定式祭礼 | 昭和二十九年四月二日 | 一 魚代 一金六百円也 | 一 酒代 一金弐百参拾弐円五十銭也 | 大西政千代 | □□勝三 | 岩田道生 | 柳生晴數 | 中村官市 | 川口忠良 | 正木俊一【三〇】 | | | 別當博 | 山本一郎 | 講員九名 | 山本一郎宅 | ろ組宿本 | 一 魚代 一金六百円也 | 一 酒代 一金弐百参拾弐円五十壱阡 | 川口一弥 | 岩田元男 |
| (宿本を除く) | 魚代 二百円 | 酒代 四百八拾五円 | イ組 | 口組 中村官市 | 宿本 イ組 岩田一夫 | 定式祭礼 | 昭和三十二年四月二日 | (宿本を除く) | 魚代 五百四拾円也 | 口組 酒五合 弐百四拾五円 【三二】 | | | (宿本を除く) | 魚代 五百四拾円也 | 酒代 一升 四百八拾五円 | イ組 | 口組 川口忠良 | 宿本 イ組 正木欽一 | 定式祭礼 | 昭和三十一年四月二日 | 魚代 参百六拾七円五拾銭 | 酒代 五合 弐百四拾五円 | 口組 | (宿本を除く) | 魚代 参百六拾七円五拾銭 | 酒代 一升 四百八拾五円 | イ組 | 口組 正木俊一 | 宿本 イ組 大西善郎 | 定式祭礼 | 昭和三拾年四月二日 | | |
| 講員(ろ組) 九名 宿本を除き | 計 四百五拾円也 | 魚代(さハら) 二百円也 | 酒五合代 二百五拾円也 | ろ組 宿本 柳生勝敏 【三四】 | | | 割勘定各壱百円宛 | 講員(い組) 八名 宿本を除き | 計 六百九拾五円也 | 魚代(さハら)弐百円也 | 酒一升代 四百九拾五円也 | い組 宿本 岩田元男 | 定式祭礼 | 昭和参拾四年四月二日 | 割勘定 各五拾五円也 | 計 四百参拾円也 | 魚代 百八拾円也 | 酒五合代 二百伍拾円也 | (ろ組) 宿本 世古勝三 | 割勘定 各壱百円宛 | 講員(い組) 八名 宿本を除き | 計 六百九拾五円 | 魚代 弐百円 | 酒一升代 四百九拾五円 | 宿本(い組) 植村誠一 | 定式祭礼 | 昭和三十三年四月弐日 | | | (宿本を除く) | 魚代 弐百円 | 酒代 五合 弐百四拾五円 | 口組 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 - | -(3) | 南張 | 富士 | 講帳 | 簿の | 翻刻 | と解詞 | 说(井 | :上) |
|------------------|------------|-----------|----------|------------------|------------|-------------|----------------|---------------|---------------------|-------------|--------------|------------|---------|------------------|-------|---------|--------|-----------|------------|---------|---------|-----------|-----------------|-------------|-----------------|----------------|-------------|------------|----------------|----------------|-------------|-----------|------------|
| 岩田道生 | ろ組 宿本 | 一人 | 講員七名に割勘定 | 右金額を宿本を除き | 合計 六四〇円 | 2. 魚代 一五〇円 | 1. 酒 (一升) 四九〇円 | 川口一弥 | い組宿本 | 定式祭礼 | 昭和三十五年四月二日 | | | 大西政千代 | 岩田道生 | 柳生勝敏 | 世古勝三 | 中村官市 | 川口忠良 | 正木俊一 | 別當博 | (ろ組) 山本一郎 | 講員 九名 | 川口一弥 | 岩田元男 | 植村誠一 | 岩田一夫 | 正木欽一 | 大西善郎 | 杉浦清也 | (い組) 小田 直 | 講員 八名 | 割勘定 各六拾円宛 |
| 一 1. 酒 (一升) 五○○円 | 小田直 | い組宿本 | 定式祭礼 | 昭和三十六年四月二日 | | | 割勘定 各壱百円也 | 講員(い組)八 宿本を除き | 計 六百九拾五円也 | 魚代(さハら)弐百円也 | 酒代一升 四百九拾五円也 | い組宿本岩田元男君宅 | 昭和参拾四年度 | | | 宿本 岩田元男 | 川口一弥殿 | 植村誠一殿 | 岩田一夫殿 | 正木欽一殿 | 大西善郎殿 | 杉浦清也殿 | 小田直殿 | い組講員順番ニ御願□□ | 御参集相成為御案内申上けました | 当日正午より宿本岩田元男宅へ | 繁栄を御祈願いたす為め | 家運隆盛と家業の | 祭禮相営□講員諸氏の | 明四月二日は冨士講定式 | 回章 控 【三六】 | | |
| 一定式祭礼 | 昭和三十七年三月二日 | | | 八】 一一、白米(各自五合持参) | 一、酒代(一升) | 一、刺身 | 一、煮ザカナ | 一、夕食ノサカナ代 | 左のものに就いては宿本を除き割勘定とす | 一、公司計 | 5. 刺身 | 4.煮ザカナ | 3. シタシ | 2. 酢合(ナマス) | 1. 煮〆 | 一、献立 | 祭日と定める | 毎年三月二日を定例 | 昭和三十七年度以降は | 一、期日の変更 | 右の通り定める | 全講員合議の上 | 昭和三十六年四月二日 【三九】 | | | 大西政千代 | ろ組宿本 | 一人 | (川口一弥君都合ニヨリ欠席) | 講員六名に割勘定 | 右金額を宿本を除き | 合計 八四〇円 | 2. 魚代 三四〇円 |
| 割勘定 | 六名(一名欠席)にて | 右金額を宿本を除く | 合計 一四七〇丨 | 一、夕食だし代 一三〇一 | 一、煮魚代 三六〇一 | 一、刺身魚代 四五〇一 | 一、酒代 五三〇一 | 大西善郎 | い組宿本 | 定式祭礼 | 昭和三八年三月二日 | | | 夕食 「チラシすしおよび五目飯」 | 昼 茶菓子 | 集会 午後一時 | ろ組別當博 | い組 大西善郎 | 昭和三十八年度宿本 | ろ組 九名 | い組八名 | ろ組 山本一郎 | 及白米五合 | 一人 二〇〇円 | 講員七名に割勘定 | 右金額を宿本を除き | 合計 一三八〇円 | 三、サシミ 五〇〇円 | 五目出し | 二、魚代 煮サカナ 三五〇円 | 一、酒代一升 五三〇円 | 杉浦清也 | い組宿本 |

| 紀 | 要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|------------|------------|----------------|-------------|------------|------------|----------------|------------|-----------|------------|------------|--------------|------------|----------------|----------------|---------------|--------------|----------------|------------|------------|-----------|---------------|--------------------|----------------|-----------|-----------------|-----------|------------|-------------|----------------|----------------|-------|-----------|
| 金弐百五拾円也 | 七名割勘定一名宛 | 右之金額は宿本を除く | 他に白米五合 | 合計金 壱阡七百拾円也 | 一、魚代 壱阡円也 | 一、酒代 七百十円也 | ろ組 柳生勝敏宅 | い組植村誠一宅 | 定式祭礼 | 昭和四拾壱年三月二日 | 会費 弐百円也 | ろ組 中村官市〃 | い組 岩田一夫宅 | 定式祭礼 | 昭和四拾年三月二日 | 割勘定 一名宛 二〇〇円也 | 右之金額は宿本を除き七名 | 他に 白米 五合 【四二】 | | | 合計 一三七五円 | 一、魚代 七〇〇円 | 一、酒代 六七五円 | ろ〃 川口忠良 | い組宿本 正木欽一 | 定式祭礼 | 昭和三九年三月二日 | ろ組 正木俊一 | い組正木欽一 | 三十九年度宿本 | 別當博 | ろ組宿本 | 他に白米五合 |
| い組 小田直氏宅 | 定式祭礼 | 昭和四拾四年三月二日 | 金四百円也 | 六名割勘定一名宛 | 右之金額は宿本を除く | 他 白米五合 | 合計金 弐阡弐百円也 | 一金酒魚代金【四四】 | | | ろ組 大西政千代君宅 | い組 川口一弥君宅 | 定式祭礼 | 昭和四十参年三月二日 | ろ組 大西政千代君宅 | い組 川口一弥君宅 | 昭和四十三年度宿本 | 金四百円也 | 七名割勘定一名宛 | 右之金額は宿本を除く | 他に白米五合 | 合計金 弐阡七百七拾五円也 | 一 魚代金 弐阡参拾円也 | 一 酒代金 七百四拾五円也 | ろ組 岩田道生君宅 | い組 岩田元男君宅 | 定式祭礼 | 昭和四拾弐年三月二日 | | | 世古勝三君 | 岩田元男君 | 四拾弐年度宿本 |
| 八名にて割勘定 | 計四二七〇円也 | アジ代 六百五十円 | 刺身 一六二〇円也 | 煮魚代 一一一〇円也 | 酒代一升 八九〇円也 | (ろ組) | 一人当り 五八八円也 | 六名にて割勘定 | 右金額を宿本を除き | 計 三五三〇円也 | アジ代 五〇〇円也 | 刺身 一一四〇円也 | 煮魚代 一〇〇〇円也 | (い組)酒代一升 八九〇円也 | ろ組 川口忠良〃 | い組 大西善郎様宅 | 定式祭礼 | 昭和四十六年三月二日 | | | 欠席す | 岩田一夫氏昨年九月死亡に付 | □□酒一升八三○円魚代二阡四百十四円 | い組酒魚代含み三阡百四拾四円 | ろ組 別當博様宅 | い組 杉浦清也様宅 | 定式祭礼 | 昭和四拾五年三月二日 | 右金額宿本を除き割勘定 | 他に白米五合 | い、ろ組合計六阡弐百六拾円也 | 酒魚代 | ろ組 山本一郎氏宅 |
| アじ代四五〇円 | 刺身 二三五○円 | 煮魚 一六五〇円 | い組 酒代一升 八百九十円也 | ろ組 中村官市氏宅 | い組 植村誠一氏宅 | 定式祭礼 | 昭和四十八年三月二日【四七】 | | | 小田直氏 死亡 | 昭和四十七年十二月 | 一人当り 四八五円也 | 八名にて割勘定 | 計三八七〇円 | 鯵 四〇〇円也 | 刺身 一四五〇円也 | 煮魚 一一三〇円也 | (ろ組)酒代一升 八九〇円也 | 一人当り 五八〇円也 | 六名にて割勘定 | 右金額を宿本を除き | 計 三四八〇円也 | 鯵 三〇〇円也 | 刺身 一三〇〇円也 | 煮魚 九九〇円也 | (い組) 酒代一升 八九〇円也 | ろ組 柳生勝敏様宅 | い組 正木欽一様宅 | 定式祭礼 | 昭和四拾七年三月二日【四六】 | | | 一人あたり五三四円 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 - | -(3) | 南張 | 富士 | 講帳 | 簿の | 翻刻。 | と解記 | 说(井 | 上) |
|----------|--------------|-----------------|------------|-----------|-------------|-----------------|-------------|--------------|----------|----------|-------------|----------|------------|---------------|----------------|-------------------|------------|---------------|--------|------------|----------------|----------|------------|-----------|------------|------------|----------|----------------|--------------|-------------|---------|----------------|-----------------|
| 御日待を行ふ | 合同にて公民館にて | 川口一弥 | 宿本 大西政千代 | 定式祭礼 | 昭和五拾年参月弐日 | | | 一人当 八百五十円也× | 十三名にて割勘定 | 八阡四百五十円也 | 両組合計金 | さんま 四百円 | 煮魚 壱阡八百九十円 | さしみ 四阡一百六十円 | 酒二升 壱阡九百六十円 | 両組合計 | 行ふ | 公民館にてお日待を | で有るが合同 | ろ組 岩田道夫氏 | い組 岩田元男氏 | 定式祭礼 | 昭和四十九年三月二日 | | | 不記 | 中村官市氏宅 | ろ組 | 欠席 川口一弥氏 | 一人当り 一〇六八円也 | 五名にて割勘定 | 右金額を宿本を除き | 計 五三四〇円 |
| | | | | | 四九 | | | | | | | | 円 | 円 | 円 | | | | | | | | 四八 | | | | | | | | | | 円 |
| 金壱阡円也とする | 一人当九百年 | 宿本を除く- | 合計 | 五、 // | 四、すし用あじ | 三、煮魚 | 二、鰹(三本) | 一、清酒弐升 | | 宿本 | 昭和五十一年 | 会場 | 行う | により左記の | 右の通り執行 | 今回より毎年 | 定式祭礼 | 昭和五十一年三月七日 | | | 杉浦清也氏 | 昭和五十一年一月 | する | ●米の持参を無しと | 参月第一日曜日とする | ● 明五拾壱年度より | 一人当 | 十三名にて割勘定 | 両組計「八四 | ・煮魚 | ・さんマ | ・さしみ | ・酒二升 |
| とする | 人当九百拾八円也なれども | 宿本を除く十二名にて割勘定とす | 計 壱万壱阡弐拾円也 | さんま 六百円 | めじ 壱阡四百拾円 | | ◆) 参阡九百五十円 | | 大西善郎 | 山本一郎 | 昭和五十一年三月十二日 | 公民館 | | により左記の如く定式祭礼を | 右の通り執行すべきところ都合 | 今回より毎年参月の第一日曜日と定む | | 二月七日(日曜日) | | | 死亡 | 月 | | 無しと | 曜日とする | 度より | 一人当 七百円也 | 刮勘定 | 両組計「八阡五百参拾円」 | 壱阡八百円 | 八百四拾円 | 参阡五百参拾円 | 貳阡参百六拾円 |
| | | とす | 円也 | | 百拾円 | 弐阡四百弐拾五円 | 五十円 | 弐阡六百六拾円 | | | | | | | 合 | 日と定む | | | | | | | | | | | | | | | | 円 | 円 |
| 三月一日午後一時 | 昭和五拾参年度より | 一人当り壱千弐百 | 頂きし為 | し四十円は宿本に | として山本一郎氏 | 宿本を除く十名に | 合計 | 一、かしわ | 一、サンマ | 一、イカ | ー、ムッ | 一、刺身 | 一、清酒二升 | | 宿本 | 会場 | も都合に | 注 本年より | 定式祭礼 | 昭和五拾弐年三月一日 | | | 3. ナマス | 2. ツボ | 1. 平 | 礼供 | 5. 刺身 | 4. 煮魚 | 3. 寒天 | 2. 膾又ハヌタ | 1. 煮〆 | 当日の献立 | 翌伍拾弐年章 |
| 午後一時とする | 年度より | 壱千弐百円とする | | は宿本にて負担して | 本一郎氏ハ五百円お願い | く十名にて割勘定 | 壱万弐阡五百四十円 | 一、弐百八十円 | 一、壱千五百円 | 一、六百円 | 一、三阡円 | 一、四阡五百円 | _ | 別当博 | 平 正木欽一 | 公民館 | も都合に依り本日行ふ | 本年より三月二日と定むれど | | 三月一日 | | | | 5. 赤飯 | 4. 味噌汁 | | 六 | 六 | 四 | メタ 四 | 四 | \overline{M} | 翌伍拾弐年度より三月二日とする |
| | | | | 7 | お願い | ~_ | 品 十 円 | (十円 | 音円 | | | 自円 | 、金 弐阡六百六十円 | | | | | れど | | 五二 | | | | | | | | | | | | | する |
| 下向日待 | | | | | | 不足分徵 | 金 | 差引不足額 | | | | 合計金 | 電話代 | 鉛筆 | <u>強</u> 力 | 宴会費 | 土産 | | 運転手寸志 | | 日本旅行社 | 支出之部 | 合計金 | | | 餞別 | | 会費 | 収入之部 | 昭和五拾貳年七月 | 富士参り決算 | | |
| 14 | 貯金 | 経費 | 下向日待 九三九〇〇 | 不足額 | 1七0000 | 不足分徴収(一名 一〇〇〇〇) | 拾七萬壱阡四拾五圓 | 足額 | | | 壱阡四拾五圓也 | 壱百熕萬 | 八〇〇 | 四六六〇 | 110000 | 一二三三八五 | 二 四100 | 九〇〇〇 | 三名 | 八六〇〇〇 | 二十七名分(| | 八拾五萬圓也 | 四0000 | 教育長 | 二名区長 | 八 0000 | 二十七名分(| | 七月 | 升 | | |
| | 五〇五五 | | 三九〇〇 | 一七一〇四五 | | 000) | 五圓 | 五三 | | | 也 | | | | O | 八五 | | | | | 二十七名分(一名三二〇〇〇) | | | O | 長 西井保三氏 | 堀尾良一氏 | | 二十七名分(一名三〇〇〇〇) | | | 五三 | | |

| 川面巌 | 大西大善 | 大西善吾 | 大西恭平 | 堀尾泰功 | 山本長司 | 川口潮 | 植村公雄 | 中島保拾 | 杉浦勗 | 橋本梓 | 別当幸生 | 中村勘吾 | 大西輝夫 | 西井久三 | 堀尾兵蔵 | 西井新之助 | 川口博生 | 新山名簿 | | | 計 九萬参阡九百圓也 | つまみ代 五〇〇〇 | 住出代 一名一〇〇〇 四七〇〇〇 | 寿司代 一名五〇〇 三三五〇〇 | ビール代 三ケース 一一四〇〇 | 酒代 五本 七〇〇〇 | 収支之部 | 計四一名 | 新山組 二七名 | 旧山組 一四名 | 人員 | 場所 南張公民館 | 昭和五拾貳年七月二十九日 |
|---------------|------------|------------------|-------------|---------------|-------------|---------|-----------------|----------|--------------|----------|------------|------------|-------------|------------------|-------------|--------|-----------|----------------|----------------|----------|------------|-----------|------------------|-----------------|-----------------|------------|------|------|---------|-----------|------|----------|-----------------|
| 当日集合は正午楠之宮に参拝 | 今年は三月十日に定む | 註 毎年三月一日なるも都合に依り | 定式祭礼 | 日時 昭和五十三年三月十日 | 会場 公民館 【五六】 | | | ビール 二十本 | 大西大善氏より | ビール 二十本 | 西井新之助氏より | ビール 二十本 | 川口博生氏より | 清酒一一本 | 代理者堀尾光太郎氏より | 清酒 一本 | 区長堀尾良一氏より | コカコーラホームサイズ 十本 | ファンタホームサイズ 十二本 | ビール 三十本 | 旧山組より頂く | 下向日待 |) | 田畑忠義 |) 川口修一 | 川口栄紀 | 植村和則 | 植村房宏 | 小田幸志 | 川口利幸【五五】 | | | 堀尾昌弘 |
| 山本長司 | 五十四年 中村勘吾 | 大西輝男 | 西井久三 | 堀尾兵蔵 | 西井新之助(中島保拾) | 当番 川口博生 | 昭和五十三年三月十日 | 当番制とする | 一、宿本は五名一組として | ビール 二十本 | 酒 三本 | すること | 他のものは宿本にて出費 | 一、酒魚は徴集すること 【五七】 | | | 二、五目飯 | 一、すし | 夕食 | 七、吸物 | 六、赤飯 | 五、すし六 | 四、寒天六 | 三、 酢の物 六 | 二、煮〆六 | 一、 刺身 六 | 本膳献立 | 四、赤飯 | 三、味噌汁 | 二、なます | 一、平 | 当日の礼供 | 後直ちに公民館に於て日待を行う |
| 平 | 礼供 | 行ふ、午後十二時終了 | 直に公民館に於て日待を | 当日正午楠の宮に参拝後 | 会場 公民館 | 定式祭礼 | 昭和五十四年三月一日 【五九】 | | | 出席者 二十五名 | 一人当り 金五百圓也 | 金壱萬貳阡百九拾圓也 | 酒魚代 | 川口修一 | 田畑忠義 | 川口栄紀 | 植村房宏 | 五十七年 杉浦勗(勘吾) | 川田幸志 | 川口利幸 | 堀尾昌弘 | 大西大善 | 五十六年 橋本梓 【五八】 | | | 大西善吾 | 大西恭平 | 堀尾泰功 | 植松公雄 | 五十五年 別当幸生 | 中島保拾 | 植村和則 | 川面巌 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | -(3) | 用饭 | 虽工 | 再 恢 | 専の値 | 翻刻る | と解え | 兄(开 | 上) |
|-------------------------|--|------------|----------|-------------|-------------|-------------|--------|-----------|----------------|-------------|------|--------------|---------------|----------------|-------------|--------------|--------|-------------|-----------------------|-------|-----|--------------|------------|-------------|-------------|-----------|-----------|------------|---------|------|-------------|-------|
| 西井新之助氏より一、オレンジジューズ 貮□ | | 一人当り 六百六拾円 | 出席者 二十四名 | 金壱万四阡五百参拾円也 | 一、酒、魚代金 | 植村和則 | 川面巌 | 山本長司 | 杉浦勗 | 西井新之助 | 当番 | ビール 三本 | 清酒 六本 | 宿本にて出費する事 | より徴集し、他のものは | 一、費用は酒、魚代を全員 | | | 二、五目飯 | 一、寿司 | 夕食 | 七、なます | 六、 味噌汁 | 五、すし、六皿 | 四、 寒天 六皿 | 三、 酢の物 六皿 | 二、煮〆、六皿 | 一、 刺身 六皿 | 本膳献立(昼) | 四、赤飯 | 三、味噌汁 | 二、なます |
| 別當幸生 | | 出費する事 | | | し他のものは宿本にて | 一、酒魚は全員より徴集 | 二、五目飯 | 一、寿し | 夕食 | 七 味噌汁 | 六、赤飯 | 五、寿し | 四、寒天 | 三、酢の物・ | 二、煮〆 | 【六〇】 一、 刺身 | 本膳献立 | 四、赤飯 | 三、味噌汁 | 二、なます | 一、平 | 礼供 | 行ふ午後十二時終了 | 直に公民館に於て日待を | 当日正午楠の宮に参拝後 | 会場 公民館 | 定式祭礼 | 昭和五十五年三月一日 | | | 堀尾兵蔵氏より | |
| ± | 七本 | 医 | | | 7 | 未 | | | | | | 六皿 | 六皿 | 六皿 | 六皿 | 六皿 | | | 昭和 | | | | | | 192 | | | 云 | | | 感氏より | 貫本 |
| 四、赤飯汁 | | 一、平 | 禮供 | 後十二時終了 | 拝後直に日待を取行い午 | 当日正午より氏神様に参 | 小田幸志 | 川口利幸 | 大西大善 | 堀尾昌弘 | 橋本梓 | 昭和五十六年宿本 | 日を三月の第一日曜日と定む | 度(昭和五十七年)以降、開講 | ※講員の合議に依り来年 | 決議事項 | 会場 公民館 | 定式祭礼 出席二十五名 | 昭和五十六年三月一日(日曜日) 【六三】 | | | オレンジジュース四□戴く | 一、西井新之助氏ヨリ | 残金は貯金え振込む | 一人当り千円づつ集めて | 出席者二十五名 | 金二万一千二百円也 | 一、酒魚代金 | 大西恭平 | 大西善吾 | 堀尾泰功 | 植村公雄 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Ξ | | | | | | | | | | | | | |
| 一、 一、 清 清酒 酒 | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 殿 | ビール | 一、サントリーオールド | 殿 | 一、金 五〇〇〇円 | 当日の寄贈者 | 残金は貯金に振込む | 金一人当たり一〇〇〇円を徴集 | 一、金貳万貳千八百円也 | 酒魚代金 | サントリーオールド 二本 | 清酒 一級 | 本にて負担 | より徴集し他のものは宿 | ※費用は、酒刺身代を全員 | 外に漬物 | 三、五目飯 | 二、手こね寿司 | 一、押寿司 | 夕食 | 八、味噌汁 | 七、寿司 | 六、 野菜サラダ盛合せ | 五、鶏肉から揚 | | | 四、ぬた六 | 三、酢の物・六 | 二、煮〆 | 一、 刺身 六皿 | 本膳献立 |
| 一本 本 川本 本 科 田 本 科 田 瀬 殿 | | | 五本 大西大善 | 本 | | 川口博生 | | | ○円を徴集 | | | 二本 | 六本 | | | | | | | | | | 六 | 量合せ 六 | 六【六四】 | | | | | | m | |

昭和五十七年三月七日 当日正楠の宮に参拝後 行う午後十二時終了 直に公民館にて日待を 会場 公民館 定式祭礼 酒魚代金 礼供 本膳献立 口座に振込む 右合計一〇二五〇円也を貯金 川口博生氏 会ヒ残金 刺身 なます 味噌汁 寿司 味噌汁 なます 寒天 押寿司 五目飯 以上 大 大 大 大 大 五〇〇〇円 三二〇〇円 二〇五〇円 天六 (天五 昭和五十八年参月拾参日 行う午後十二時終了 直に公民館にて日待を 当日正午楠の宮に参拝後 清酒 一本 川口潮氏 清酒 一本 堀尾兵蔵氏 金弐万参阡円也 六、寿司 五、ぬた 四、なます 二、煮〆 一、刺身 参、寒天 会場 公民館 定式祭礼 賽銭 壱阡六百五拾円 会費 一人当 壱阡円 礼供 当日の寄贈者 出席者 二十三名 本膳献立 田畑忠義 川口修一 川口栄紀 植村房廣 中村勘吾 なます 味噌汁 【六七】 昭和五十九年参月四日 夜十二時にて終了 当日正午楠の宮参拝 定式祭礼 公民館にて日待を行ふ 会場 公民館 夕食 八、味噌汁 戴き貯金に振込む金一二〇〇圓也 西井新之助氏より餅米代寄付 精算書別紙に明細記入 賽銭二阡二百圓貯金に振込 賽銭貳阡貳百圓也 計貳万五阡圓也 会費一人当壱阡圓 出席者貳拾五名 当日寄付者 川口博生 金貳万七阡八拾圓也 西井新之助 植村和則 堀尾兵蔵 西井久三 西井新之助 大西輝雄 押寿司 五目飯 ジュース 一ケース 餅米代 一二〇〇円 [天九] 医八 夕飯 買物経費 本膳献立 六、寿司 五、 ぬ た 味噌汁 四、なます 三、寒天 赤飯 なます 酒 魚 その他 金額 五目飯 二升 押寿司 二升五合 八、味噌汁 七、赤飯 二、煮〆 当日寄付者 集金額 二万五千円也 会費一人当 一千円也 出席人員 二十六名 計 四万七千二百二十六円也 は宿本達が持よる 買物外の不足ハ少々な品 一、刺身 中島保拾 杉浦 勗 一金二千円也 川口博生 清酒 一本 川口潮 六 // 六 // 六 // 七皿 六 // 一升一合

> 七 〇 上

| 宿本 | 酒魚代金 | 五目飯 | 押寿司 | 夕食【七二】 | | | 八、 味噌汁 | 七、赤飯 | 六、 寿司 六〃 | 五、ぬた六〃 | 四、なます、六〃 | 三、寒天 六〃 | 二、煮〆、六〃 | 一、 刺身 六皿 | 本膳献立 | 四、赤飯 | 三、 味噌汁 | 二、なます | 一、平 | 礼供 | 終了する | 午後十二時全員集合 | 日待を行ふ | 後直ちに公民館にて | 当日正午楠の宮に参拝 | 会場 公民館 | 定式祭礼 | 昭和六十年二月二十四日 【七一】 | | | 川面巌 | 山本長司 | 堀尾泰功 |
|-------|--------|--------|-----------|------------|----------|----------|---------|------------|----------|--------|-----------------|--------------|---------|----------|------|------------|---------|--------|------|--------|-------------|--------------|---------------|-----------|-------------|--------------|------|---------------------|-------|-----------------|------|-------|----------|
| 清酒一本 | 当日の寄贈者 | 五、つけもの | 四、吸物 | 三、五目飯 | 二、さんま押寿し | 一、かつを手こね | 八、赤飯 | 七、味噌汁 | 六、ぬた | 五、からあげ | 四、寿し | 三、なます | 二、煮〆 | 一、刺身 | 本膳献立 | 四、赤飯 | 三、味噌汁 | 二、なます | 一、平 | 禮供 | 夜十二時終了解散となる | 後公民館に於て日待を行い | 当日正午楠之 | 会場 公民館 | 定式祭禮 | 昭和六十一年二月二十三日 | | | 堀尾兵蔵 | 大西恭平 | 大西善吉 | 植村公雄 | 別当幸生 |
| 川口拾生殿 | | 0 | | 晝 | 押寿し | 手こね | | | 六 | げ六 | 六夜 | 六 | 六 | 六 | | | | | | | 解散となる | て日待を行い | 当日正午楠之宮にて一同参拝 | 館 | 出席者二十三名 | | | | 兵蔵 | 恭平 | 善士口 | 公雄 | 辛生 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 1177 | | | | | | | | | | 七三 | | | | | | | |
| 四、な | 三、唐 | 二、 | 一、刺 | 本膳献立 | 四、赤 | 三、味 | 二、な | 一、平 | 礼供 | 夜十二時終了 | ののち公民党 | 当日正午楠の | 会場 公民館 | 出席を | 定式祭礼 | 昭和六十二年三月一日 | | | 小田幸志 | 川口利幸 | 大西大善 | 堀尾昌弘 | 橋本梓 | 宿本 | 不足金 | 会費 | 内訳 | 経費 | かつを | ジュース | | | // 一本 |
| なます | 唐揚 六皿 | 煮〆 六皿 | 刺身 六皿 | 飲立 | 赤飯 | 味噌汁 | なます | • | | 1 | ののち公民館において日待を行い | 当日正午楠の宮に一同参拝 | 絽 | 出席者二十二名 | | 三月一日 | | | 芯 | 辛 | 吾 | 54 | | | 不足金は宿本負担とする | 11111000円 | | 五〇一七〇円 | 太 | 2ケース 西望 | | | 4 川口潮殿 |
| | | | | | | | | | | | 待を行い | 排 | | | | [七五] | | | | | | | | | する | 円 | | 円 | 大西大善殿 | 2ケース 西井新之助殿【七四】 | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 五 | | | | | | | | | | | | | | | | | _ |
| 礼供 | 夜十二時終了 | 日待ちを行ふ | 参拝後公民館に於て | 当日正午楠の宮に一同 | 会場 公民館 | 出席者 | 定式祭礼 | 昭和六十三年三月六日 | | | | | | | | 宿本 | 不足分宿之負担 | 金五一 | 経費 | 西井新之助 | 川口潮殿 | 川口拾生殿 | 当日の寄贈者 | 吸物 | 五 | 押 | 夕食 | 八 | 七 | | | 六、 寿司 | 五、ぬた |
| | | | に於て | 宮に一同 | | 出席者二十三名 | | 月六日 | | | 川口修一 | 川口栄紀 | 植村房廣 | 大西輝雄 | 中村勘吾 | | 之負担 | 五一〇四八円 | | | 清酒一、 | | 者 | 物 | 五目飯 | 押寿司 | | 味噌汁 | 赤飯 | | | н | , _ |
| | | | | | | | | [±±] | | | | | | | | | | | | ジュース一、 | | | | | | | | | 七六 | | | | |

| 紀 | 要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|-----------|---------------|-----------|------------|------------|--------------|---------|---------------|-----------|-------------|---------------------|------------|------------|---------|-----------|------------|------------|-----------|-----------|------------|----------|-----------|----------------|-------------|----------------|------------|--------------------|-----------|---------------|-----------------|-------|-------------|-----------|
| 山本長司 | 植村和則 | 川面巌 | 川口潮 | 西井久三 | 西井新之助 | 宿本 | 不足分宿本負担 | 金 六一五四三円 | 経費 | 川口潮殿 猪肉約1kg | 西井新之助殿 オレンジジュースーケース | 堀尾兵蔵殿 清酒一本 | 川口拾生殿 清酒一本 | 当日寄贈者 | 三、吸い物 | 二、五目飯 | 一、あじ押寿司 | 夕食【七八】 | | | 七、味噌汁 | 六、赤飯 六皿 | 五、ぬた 六皿 | 四、なます 六皿 | 三、唐揚 六皿 | 二、煮〆 六皿 | 一、刺身 六皿 | 本膳献立(昼) | 五、つぼ(かし) | 四、赤飯 | 三、味噌汁 | 二、なます | 平 |
| 当日寄贈者(お酒・ジュース) | 一、吸物 一、かし | 一、寿司・五目飯(各参升) | 夕食 | 一、味噌汁 | 一、赤飯 参升 | 一、寿司 ""(七皿注) | 一、ぬた "" | 一、なます "" 【八〇】 | | | 一、唐揚 " " | 一、煮〆 "" | 一、刺身 六皿 | 本膳献立 昼 | 一、かし | 一、赤飯 | 一、味噌汁 | 一、なます | 一、平 | 礼供 | を取行う | 後公民館に於て日待 | 当日正午楠の宮に参拝 | に行う | 都合により本年は二月二十九日 | 毎年参月一日祭行うも | 出席者二十参名 | 会場公民館 | 定式祭礼 | 日時平成元年参月十九日【七九】 | | | 賽銭 二二〇〇円 |
| 一一一、味噌汁 | 一、赤飯 三升 | 一、寿司 六皿隻 | 一、ぬた 六皿 | 一、唐揚 六皿 | 一、煮〆 六皿 | 一、刺身 六皿 | 本膳献立 昼 | 〕 一、 つぼかし | 一、赤飯 | 一、、味噌汁 | 一、なます | 一、平 | 礼供 | 日待を取り行ふ | 集合楠の宮に参拝後 | 当日正午一同公民館に | 出席者 二十一名 | 会場公民館 | 定式祭礼 | 平成二年二月二十九日 | | | 賽銭二千二百十圓十参百六十円 | 不足分当番負担 | 一、五萬壱阡八百圓 | 経費 | 植村公雄 堀尾兵蔵 | 大西善吾 大西恭平 | 杉浦勗 別当幸生 | 宿本当番 | 川口潮 | 大西恭平 大西善吾 | 西井新之助 橋本梓 |
| 当日正午楠の宮に参拝 | 出席者 二十一名 | 総員 二十四名 | 會場 センター浜島 | 第十五回定式祭礼 | 平成三年二月二十四日 | | | 行ふ事 | 二月の最終日曜日に | 一回とし(夕食)毎年の | 正午祭礼を行い会食は | を協議の結果、 | 来年度より諸種の事情 | 協議事項 | 賽銭 二千三百円 | 支出 五〇九四一円 | 収入 五○九四○円 | 経費 | 小田幸志 大西輝雄 | 大西大善 川口利幸 | 橋本梓 堀尾昌弘 | 宿本当番 | 宿本より ウイスキー一本 | 西井新之助 清酒 一本 | 文友會 清酒 二本 | 当日寄贈者 | 清酒五本 ビール九本 ウイスキー二本 | 一、吸物他かし | 一、五目飯 一升 【八二】 | | | 一、鯵手こねすし 三升 | 夕食 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | -(3) | 南張 | 富士 | 講帳 | 簙の都 | 羽刻。 | と解言 | 兑(井 | 上) |
|-------------|----------|--------|------------|---------|-------|-----------|-------------|-----------------|------------|--------------|------------|------------|---------|---------------|------------|----------|---------------|------------|---------------|----------|-----------|-----------|------|----------------|-------|---------|------------|------|-----|-----------|-------------|---------------|
| 当日の寄贈者一、いちご | | 一、平 | 一、味噌汁 | 一、赤飯 | 礼供 | 於て日待を取り行ふ | 後夜十二時まで公民館に | 会食は(夕食)センターはまじま | 当日正午楠の宮に参拝 | 出席者 十七名 | 總員 二十四名 | 保養センター | 会場 国民年金 | 第十六回定式祭礼 | 平成四年三月一日 | | | 賽銭 壱阡三百円 | 経費 壱拾萬五阡百六拾七円 | 川口修一 川口潮 | 川口栄紀 中島保拾 | 中村勘吾 植村房広 | 宿本当番 | 宿本よりウイスキー みかん他 | 当日寄贈者 | 一、つぼかし | 一、なます | 一、赤飯 | 礼供 | 日待を行ふ | 夜十二時まで公民館にて | 会食はセンター浜島(夕食) |
| 堀尾兵蔵 清酒 | 之助 | 当日寄贈者 | 一、なます | 一、 平 | 一、赤飯 | 礼供 | 公民館に於て日待を行う | にて取行い夜十二時まで | 国民年金保養センター | 会食は夕食を | 当日正午楠の宮に参拝 | 出席 十九名 | 総員 二十四名 | 会場 国民年金保養センター | 平成五年二月二十八日 | 第拾七回定式祭礼 | | | 川面巌 | 山本長司 | 植村和則 | 堀尾泰功 | 西井久三 | 西井新之助 | 宿本 | 不足分宿本負担 | 金 一〇二、五三五円 | 経費 | | | 堀尾泰功殿 清酒一本 | 堀尾兵蔵殿 清酒一本 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 八六 | | | | | | | | | | | | 八五 | | | | |
| 経費 堀尾兵蔵 " " | 助清酒 | 当日の寄贈者 | 一、なます | 一、平 | 一、赤飯 | 礼供 | 日待を行ふ | まで公民館に於て | にて取り行い夜十二時 | 会食は夕食を国民センター | 当日正午楠の宮に参拝 | 出席 十九名 | 総員 二十四名 | 会場 国民年金保養センター | 平成六年二月十六日 | 第十八回定式祭礼 | | | 橋本梓組に送る | 平成六年宿元当番 | 堀尾兵蔵 | 大西善吾 | 大西恭平 | 植村公雄 | 別当幸生 | 杉浦 勗 | 宿元 | | | 不足分 貯金より補 | 金一〇八三〇〇円 | 経費 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 八八八 | | | | | | | | | | | 八七 | | | | | |
| | 金一〇九八〇二円 | 経費 | 西井新之助 清酒一本 | 当日の寄贈者 | 一、なます | 一、平 | 一、赤飯 | 礼供 | 日待を行ふ | まで公民館にて | にて取行夜十二時 | 国民年金保養センター | 会食は夕食を | 当日正午楠の宮に参拝 | 出席者 十七名 | 總員 二十四名 | 会場 国民年金保養センター | 平成七年二月二十六日 | 第十九回定式祭礼 | | | 大西輝雄 | 小田幸志 | 川口利幸 | 大西大善 | 堀尾昌弘 | 橋本梓 | 宿元 | | | 不足分は宿本負担 | 金一三三七六八円 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 九〇 | | | | | | | | | 八九 | | | | |

| 紀 | 要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|--------------|-----------------|------------|----------------|-----------|--------------|-----------|-----------|------------|------------|-------------|-------------|-----------|------------|----------|-----------|--------------|-----------|---|---------|----------|-------------|-----------|---------------|------------|-----------|--------------|------------|----------|---------------|-----------|---------------|-------------|
| 植村和則 | 堀尾泰功 | 西井久三 | 西井新之助 | 宿本(第一班) | | | 金一一一八三一円 | 経費 | 西井新之助 清酒一本 | 当日の寄贈者 | 一、なます | 平 | 一、赤飯 | 礼供 | 日待を行ふ | まで公民館にて | センターにて行い夜十二時 | 参拝会食は国民保養 | 当日正午楠の宮に | 出席者 十六名 | 総員 二十四名 | 会場 国民年金センター | 平成八年二月十八日 | 第二十回定式祭礼 | | | 川口潮 | 川口修一 | 中島保拾 | 川口栄紀 | 植村房広 | 中村勘吾 | 宿元(第四班) |
| | | | | 九三 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 五三 | | | | | | | | | 五二 |
| | 運転手謝礼 五〇〇〇円也 | 年金センター 一〇四〇四五円也 | 経費 | 祭礼懇親宴会 | 年金センターに於て | 帰南後六時より | | | を少し散策す | をあげおはらい横丁 | 神楽殿にて御神楽 | 伊勢神宮に正式参拝 | センターのバスにて | 十二時三十分国民年金 | なる | 正式参拝することに | お願いして伊勢神宮 | 宮司大西永晃氏に | めてのこころみとして | 参拝なし本年初 | 当日正午楠の宮に | 出席者 十六名 | 総員 二十三名 | 会場 国民年金保養センター | 平成十二年参月十二日 | 第二十四回定式祭礼 | | | 行う | 新山冨士参りを | 昭和五十二年七月 | 川面巌 | 山本長司 |
| | | 也 | | | | 九五 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 九四 | | | | | | | |
| 運転手寸志 五千円 | 伊勢神宮奉納 一万五千円 | 合計九万七千八百六拾五円 | バス往復運行費宴会費 | 国民年金保養センターハマジマ | 宴会会 | 南張に帰る夜六時三十分 | を散策五時伊勢出発 | をなしおはらい横丁 | 奉納し両宮正式参拝 | 外宮神楽殿にて神楽を | 後案内により新築された | 本年も宮司大西永晃氏の | 夜宴会 十五名 | 参拝者 十二名 | 出席者 伊勢神宮 | 総員 二十二名 | 平成十三年二月二十五日 | 富士講定式祭礼 | 第二十五回南張【九六】 | | | 川面巌 | 植村和則 堀尾泰功 | 西井新之助 西井? 久三 | 当番宿本 | 別当幸生 堀尾兵蔵 | 川口利幸 川面巌 | 西井新之助 堀尾泰功 | 中村勘吾 杉浦勗 | 堀尾昌弘 小田幸志 | 川口栄紀 植村房広 | 伊勢神宮参拝者 | 合計 一一九○四五円也 |
| 領入す | 農協普通貯金に | 計 参万六千二十四円也 | 賽銭 二千四百円 | 参万参千六百二十四円 | 不加入者より徴収金 | 経費の内積立貯金【九八】 | | | 堀尾兵蔵 | 大西恭平 | 植村公雄 | 別当幸生 | 杉浦勗 大西善吾 | 平成十三年当番氏名 | 川口拾生 | 川面巌 | 堀尾泰功 | 小田幸志 | A. 加工 | 植松公雄 | 川口栄紀 | 大西善吾 | 橋本梓 | 杉浦勗 | 中村勘吾 | 西井新之助 | 伊勢神宮参拝者名【九七】 | | | 合計 拾参万四千七百十五円 | 酒外 一八五〇円 | センタ女中寸志 五〇〇〇円 | 楠の宮奉納 一〇〇〇円 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 - | -(3) | 南張 | 富士 | 講帳 | 簿の | 翻刻。 | と解詞 | 说(井 | 上) |
|-------------------------|-----------------|-------------|----------------|----------------|----------------|------------|---------------|-------------|---------------|----------------|------------|-------------|----------------|----------------|---------------|--------------|-------------------|--------------|-----------|-----------------|--------------|-----------------|--------------------|------------|-------------------|-------------|---------------------|------------|--------------|-------------------|--------------|---------|---------------|
| 小田幸志 川口利幸 | 植村公雄 植村房広 | 植村和則 川口栄紀 | 西井新之助 杉浦勗 | 伊勢神宮参拝者名 【一〇〇】 | | | 小田幸志 | 大西大善 川口利幸 | 橋本梓 堀尾昌弘 | 宿本当番 三班 | 懇親宴会を行う | 六時参十分より日待 | 後六時頃帰 | い横丁を散策して午 | 楽をあげる後おはら | 参拝内宮にてお神舞 | 伊勢神宮両宮に正式 | 氏の後案内により | 本年も宮司大西永晃 | 後年金センターのバスにて | 十二時三十分楠の宮参拝 | 伊勢神宮参拝者 十名 | 内参加者数 十六名 | 総員 二十二名 | 会場 国民年金保養センターはまじま | 平成十四年二月二十四日 | 南張富士講定式祭礼 | 第二十六回 【九九】 | | | 申送る | 橋本梓組に | 次当番 |
| 年金センターにて日待懇親 | 散策して六時帰り | 楽奉納おかげ横丁 | 内宮神楽殿にてお神 | 内宮にて正式参拝 | 両宮参拝する | 大西宮司の案内により | 年金センターのバスにて | 参拝なり 十二時三十分 | 八桂神社前集合 十二時 | 午前十一時五十五分楠御前 | 伊勢神宮参拝者十一名 | 内参加者十五名 | 総員 二十一名 | 国民年金保養センターはまじま | 会場 | 平成十五年三月二日日曜晴 | 南張富士講定式祭礼 | 第二十七回 | | | 支出金 一七六二〇〇円也 | 一〇〇〇〇円 楠の宮奉納 | 一五〇〇〇円 神楽殿奉納 | 三〇〇〇円 女中謝礼 | 五〇〇〇円 運転手謝礼 | 八二〇〇円 娯楽室 | 支出 一二六〇〇〇円 年金センター浜島 | 賽銭 二一〇〇 | 宮司 一〇〇〇 | 入金 二五一○○円 積立預金外二人 | 会計 111000 | 宮司 大西永晃 | 堀尾兵蔵 |
| 午前零時過マデ日待ヲナス | 午夕二回ノ食事ヲナシ | 六合携帯)講宿へ参集シ | 一、講員ハ當日午前拾時(白米 | 日卜改厶 | 一、本講定式祭禮ハ四月貳 | 本講更正規約 | | | 女中寸志 三〇〇〇 | 楠の宮お供 一〇〇〇〇 | 運転手謝礼 五〇〇〇 | 神楽殿奉納 二〇〇〇 | 年金センター払 一二七三七七 | 支出 一六五三七七円 | 賽銭 一四四〇 | 二三八〇〇 | 入金 二五二四〇円 積立貯金外二名 | 堀尾兵蔵 | 堀尾昌弘 川面巌 | 川口利幸 堀尾泰功 | 川口栄紀 小田幸志 | 植村公雄 植村房廣 | 西井新之助 杉浦勗 | 伊勢神宮参拝者名 | 川口修一 | 中島保拾 | 川口栄紀 | 植村房廣 | 中村勘吾 | 宿本當番第四班 | | | 会を行う |
| 畫食及夜食ヲ饗セラルモノトス | 一、當日参詣者ノ留守宅一同ヨリ | ルモノトス | 拶ノ為参詣者ノ留守宅ヲ廻 | 相當スルモノハ講員ヲ代表シ挨 | 一、其年ノ當番及翌年ノ當番ニ | 午后十二時トス | 當日集合ハ午前十一時解散ハ | 日待ヲナスモノトス | ノ宅ニ集合ノ上氏神ニ参拝シ | 一、山差ノ當日ハ講員一同先達 | スル規定 | 山差及下向日待二関 | 解散ス | 一、新古山一同氏神ニ参拝ノ後 | 但右酒代ハ古山ニ於テ分担ス | トス | 木谷峠ニ於テ祝杯ヲ擧クルモノ | 出迎ノ際ハ酒壹升ヲ携行シ | 峠マデ出迎フル事 | 一、下向皈宅ノ日ハ講員一同木谷 | 番ノ者村端マデ見送ル事 | 一、新山参詣出發ノ際ハ其年ノ當 | 新山参詣送迎ニ関スル規定 【一〇四】 | | | 富士講員 印 | 明治参拾九年四月貳日ヨリ施行 | 員全体ノ負担トス | 一、酒魚代ハ講宿ヲ除キ講 | 但シ人員ノ多寡ニヨリ増減ス | 一、當日ノ御酒ハ壹升トス | コト | 一、講宿ハ各講員へ使ヲ廻ス |

| 紀 | 要 |
|---|---|

| 紀 | 要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---------------|--------------|--------------|---------------|--------------|----------|-------------|----------------|----------|-------------|--------------|----------|------------|-----------|-------------|-----------|-------------|--------------|--------------|--------------|-----------|-------------------|---------------|---------------|---------------|-------------|---------------|------------------|--------------|---------------|----------------------|--------------|--------------|
| 一、酒肴ヲ出ス時刻ハ | 神社ニ参拝スルコト | 宿本ニ参集シ揃ッテ | 一、當日ハ午後一時迄ニ | 米五合携帯ノ上 | 砂糖三十匁ト | トス | モク飯」又ハ「スシ」 | 一、本膳ハ夕食トシ「ゴ | 五合ニ三献トス | 当日ノ酒肴ハ酒 | 一、定式祭礼(四月二日) | | 改訂 | | | 昭和四年四月貳日 | 右之通リ定ム | 参集シ氏神ニ参拝スルコト | 一、當日ハ午前拾時宿本ニ | 但シ魚ナキトキハ赤飯トス | 一、本膳ハ寿しトス | 七献トス | 一、定式祭礼當日ノ酒肴ハ | 明治四十三年八月五日規定ス | 但米酒肴代ハ新山ノ負擔トス | 日待ニ準シテ之ヲ行フ | 一、當日ノ日待ハ定式祭礼ノ | 一、下向日待ハ皈宅ノ翌々日ニ行フ | 但御酒ノ量ハ随時之ヲ定ム | トス | 一、當日ノ御酒代ハ講員ノ負担 【一〇五】 | | |
| 内宮神楽殿にてお神 | 内宮正式参拝 | 宮司の案内により | バスにて大西永晃 | 社参拝年金センター | 十二時楠御前八柱神 | の宮前集合 | 午前十一時五十五分楠 | 七名 | 伊勢神宮参拝者 | 拾十参名参加 | 総員十六名内 | 浜島 | 国民年金保養センター | 会場 | 平成十六年二月二十九日 | 南張富士講定式祭礼 | 第二十八回 | | | 昭和十八年三月廿九日 | 右ノ通り改ム | 付記 サトー代ハ宿本ヨリ支拂フコト | 講(社)スルコト【一〇七】 | | | 宿ヲ済マセタル者ノミ退 | ツリ新山ノ出来タル時 | シテ止マリ年々日待仕へマ | 山ノ出来ルマデ講員ト | モ退講(社)スルコトナク新 | 一、講員ハ講宿ヲ済マセテ | (夕食) ハ午後七時トス | 午後三時トシ本膳 |
| 会費堀尾泰功 八八三六円 | 入金 | 合計 一四五四二五円 | 清酒一本 一四○○円 | 楠の宮奉納 一〇〇〇〇円 | 神楽殿奉納 二〇〇〇〇円 | 女中謝礼 | 運転手謝礼 五〇〇〇円 | センター支払 一〇六〇二五円 | 会計 支出 | 川面巌 | | | 大西善吾 | 小田幸志 | 植村房広 | 川口栄紀 | 堀尾兵蔵 | 植村和則 | 伊勢神宮参拝者名 | 植村和則 | 川面巌 | 堀尾泰功 | 西井久三 | 西井新之助 | 宿本當番第一班 | 日待懇親会を行う | 年金センターにて | 六時より | 五時半頃帰る | おかげ横丁散策 | | | 楽奉納 |
| 一酒 一〇 五八〇〇円 | 夕食事七人分 三八五〇〇円 | 御供用酒 一八〇〇円 | 経費 | | | 宴会親睦会を行う | 午後六時三〇分より | にて行う | 為浜島松阪屋旅館 | 保養センター浜島閉鎖の | 本年より国民年金 | 十二時楠の宮参拝 | 堀尾兵蔵 | 川面巌 川口利幸 | 植村房宏 植村和則 | 杉浦勗 川口栄紀 | 会十二名の内参加者七名 | 総員十四名の内二名脱 | 平成十七年二月二十日 | 南張富士講定例祭礼 | 第二十九回 | | | 大西善吾 堀尾兵蔵 | 別当幸生 大西恭平 | 平成十七年度は杉浦勗 | 補填する | 不足分は積立貯金より | 計 二二〇三六円 | 賽銭 一二〇〇円 | 会費 | 平成十六年一年分 | 大西永晃氏 一二〇〇〇円 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 - | -(3) | 南張 | 富士 | 講帳 | 簿の | 翻刻。 | と解詞 | 说(井 | 上) |
|----------------|----------------|----------------|----------------|------------|------------|---------------|----------------|--------------|--------------|---------|---------------|--------------|--------------|--------------------|--------------|--------------|--------|------------------|-----------|---------------|----------------|-----------|-----------|--------------|-------------|---------------|----------|------------|-----------------|----------------|------------|------------|----------|
| 楠の宮玉串料 | 宴会費 | 宴会懇親会 | 六時より浜島松阪屋にて | 午後五時半楠の宮参拝 | 堀尾兵蔵 | 川口利幸 | 小田幸志 | 植村房広 | 本年の参加者 | 川面巖 | 大西善吾 | 川口栄紀 | 大西大善 | 別当幸生 | 現在の会員 | 平成拾八年二月二十六日 | 祭礼 | 第参拾回富士講定例 | | | 川口潮(積立貯金外) | 別当幸生 | 川口利幸 | 積立外 | 堀尾泰功 | 小田幸志 | 川口栄紀 | 植村和則 | 残存会員名 | 合計 | 女中寸志 | 消費税 | ビール 三 |
| 一0000円 | 六八八八○円 | | 松阪屋にて | の宮参拝 | 大西永晃 | 大西善吾 | 川口栄紀 | 大西大善 | | 植村和則 | 堀尾兵蔵 | 川口利幸 | 小田幸志 | 植村房宏 | | 月二十六日 | | 講定例 | | | 一貯金外) | 大西永晃 | 川面巌 | | 大西大善 | 大西善吾 | 植村房宏 | 堀尾兵蔵 | | 五参六七八円 | 三〇〇〇円 | 二三二八円 | 三五〇円 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | <u> </u> | | | | | | | | | | | | | | | |
| 会計 拾万 | 楠の宮玉串料 | 宴会 | 経費 | 宴会(懇親会) | | | 日待宴会 | 浜島石亭に於て | 楠の宮参拝六時より | 午後五時参○分 | 大西美恵子 | 小田多美子 | 堀尾兵蔵 | 大西大善 | 川口利幸 | 川口栄紀 | 本年の出席者 | 植村和則 | 川面巌 | 植村房広 | 大西大善 | 現在の会員 | 大西大善 | 当番宿本 | 平成十九年二月二十五日 | 定例祭礼(| 第参拾一回富士講 | | | 堀尾 | 清酒一本寄付 | 合計 | 女中寸志 |
| 拾万七千参百円 | 一万円 | 九万七千三〇〇円也 | | | | | | 7 | 時より | 分 | 川面千蔵 | 川口あけみ | 川口潮 | 川面巌 | 植村房広 | 小田幸志 | 大西永晃 | 堀尾兵蔵 | 川口利幸 | 川口栄紀 | 小田幸志 | | 小田幸志 | | 月二十五日 | (日待) | 士講 | | | 堀尾兵蔵 | | 八一八八〇円 | 参○○○円 |
| | |)円也 | | 三 五 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第三條 五月十八日ニハ古山新 | ヲナス事 | ノ者未明ニ必ズ□垢離 | 第二條 五月十五日ニハ右新山 | 飾ヲナス事 | 毎年五月十四ニ必ズ山 | 第一條 新山ノ者ハ三ヶ年間 | 日改更 | 明治三拾六年四月二十九日 | | | 植村和則 | 二十一年当番 堀尾兵蔵 | 金一〇六五五〇円 石亭払 | 浜島石亭にて日待宴会 | 二月二十四日午後六時より | 男九名 女四名 計十三名 | 本年の参加者 | 川口潮(鳥羽在住積立預金加入外) | 植村和則 堀尾兵蔵 | 川口栄紀 川面巌 川口利幸 | 大西大善 小田幸志 植村房広 | 現在の会員 | 植村房廣 | 当番宿本 川口栄紀 | 平成二十年二月二十四日 | 定例祭礼 日待 | 第参○二回富士講 | | | 川口栄紀 植村房廣 | 平成二十年の宿本当番 | 大西永晃 大西大善 | 精酒各一本寄付 |
| 19/1 | | Patt | Щ | | щ | | | 二十3 | | | | | | | | | | 外 | | | 14 | | | | | | 三六 | | | | | | |
| 一 一、下向宿ハ廾八日ニ準ズ | 三献トス但シ米五合宛持寄トス | 一、廾八日ハ一宿ニ付酒五合肴 | 一、総垢離ハ従来之通 | 節約ノ程度 | 大節約ヲ行フ事 | 一、従来ノ慣行ヲ改メテ永久 | 明治三十七年旧一月十三日改正 | 山本新太郎 橋本初太郎 | 当番 西井徳平 大西善松 | モノトス | 褌ヲ掛クルニ□ナル様ニナス | □リ下ハ女竹ニテ横ニ結ビ | 二本ヲ立テ上ハ注連縄ニテ | 但シ山飾ハ一人毎二御幣竹 【一一八】 | | | 事 | 従来ノ数珠ハニツ共廃止ノ | 宅スルモノトス | 本へ挨拶ヲナシ除々帰 | 第六條 同日山揚済次第宿 | 時ニハ山揚ヲナス事 | ニ宿本へ集リ午後六 | ※五條は墨消しされている | 午前八時ノ使ヲ受ケ直 | 第五條 五月晦日ニハ同ジク | へ集ル事 | 時ノ使ヲ受ケ直ニ宿本 | 第四條 五月二十八日ニハ午前八 | (本日ヲ以テ總垢離ト曰トス) | 宿本へ集ル事 | 離ヲ取リ午前八時ヨリ | 山合シ未明ニ□垢 |

| 紀 | 要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|----------------|-----------------|----------|-----------------|------------------|---------------------|--------------------|----------------|---------------|----------------|-------------|--------------|---------------|----------------|-----------------|--------------------|-----------------|---------------|--------------|------------|----------------|---------------|--------------|---------------|-------------|--------------------|--------------|----------------|-----------|---------|-----------|-------------|---------------|
| 右協定ス | 者へ譲リ渡スベシ | ノ責任トシテ毎年後任【一二〇】 | | | 一、積立金管理者ハ講社長 | 一、御酒代ハ各自分擔スルベシ | 榮費トシテ積立フルベシ | 一、御幤料ヲ以テ社殿造 | 噌汁鱠)平ハ無シ | タルベシ(昼飯雑飯晩飯白飯味 | 節約ヲトシテ宿本ノ負擔 | 正ス但シ其他ノ費用ハ最モ | 寄り昼飯晩餐ノ二回ニ訂 | 寄リノ件ヲ各自六合持チ | 二十八日ニ於ケル各自五合宛持チ | 一、明治三十七年一月十三日定約シタル | 明治三十七年五月廿八日訂正追加 | 岡村藤次郎 | 宿本當番 岩田市太郎 | ヲ行ヒタルモノナリ | モ又滋ニ見ルアリテ右等ノ更正 | 全廃スルノ規定成立セリ本社 | 應ゼンガ為メ諸種ノ會食ヲ | 會ニ於テハ冗費ヲ節シ國債ニ | 得ザル至リタレバ當區總 | 遂ニ干戈ニ訴フルノ止ムヲ 【一一九】 | | | 當時日露断交ノ結果 | 右節約ノ主旨 | へ餞別トス | ヒ其代金ヲ以テ出征軍人 | 一、前年度ノ集米ハ之ヲ賣拂 |
| 等ノ荷擔ヲ厳禁ス | ヲ方正シー切肥料 | 廾八日迄ハ一層品行 | | | 垢離ヲ取リ其日ヨリ | 例ノ通リ未明ニ竹 | 第四条 五月廿四日ニハ | 本へ集マル事 但使さシ | 離ヲ取リ八時ヨリ宿 | 古山共未明ニ竹垢 | 第参条 五月十五日ニハ | ル事 | 明ニ必ズ竹垢離ヲ取 | 第二條 五月一日ニハ未 | 長クスベシ | 六本 内女竹ヨリ御幣竹ヲ | 飾方 御幣竹五本女竹 | 山飾ヲナス事 | 第一條 四月晦日ニハ必ズ | | 富士講社 | 三十日 | 明治卅一年五月 | | | (白紙) | | | (白紙) | | | 岡部藤次郎 | 宿本 岩田市太郎 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 敷筵ハ必ズ浄々ナルモ用 | 肩モ組ムベカラズ | 爪モ切ルベカラズ | ナスベカラズ | 又理髪スル事勿レ 但シ人ノヲモ | 行中ハ浴スル事一切禁ズ | ヲ取リニ行ク事勿レ | 裸体ニテ棒ヲ荷ヒ又ハ垢離 | 但田道畔道等ハ此限リニアラズ | 街道ヲ跣足ニテ歩行スル勿レ | 珠々ヲ掛ケテ小便ヲナス事勿レ | 禁ズ | 荷棒干物竿潜ル事ヲ | 第一項 | 行状ノ事 | 第八条 | 飯 ル事 【一二五】 | | | 受ケ浄々ナル寐室へ | 社長ノ品行ノ言渡ヲ | 御勉ヲナシ御影ヲ収メ夜食ナシ | 御勉メヲナシ又夜半ニモ | 第七條 山揚済次第 | ナス事 | 但午後六時山揚ゲヲ | 宿本へ集ル事 | 仝ジク八時ノ使ニ次イデ | 第六條 五月晦日ニハ | 但シ携帯品ヲ禁ズ | 急宿本へ集ル事 | 八時ノ使ヲ待チテ至 | 第五条 五月廾八日ニハ | 但シ石灰干鰯ヲモ禁ズ |
| 人物当日頭垢離ヲナシ白 | 一、参詣ニ付発足スル日ハ當番 | 送迎掟覺 | 富士参詣ニ付古山 | 晦日ニモ右ノ如シ | 又頬冠ヲモナスベカラズ | 廾八日ニハー切日傘ヲ禁ズ | 道々哥ヲ歌フベカラズ 【一二七】 | | | ヲ払ヒ束ヲ切リ括ツルベシ | 御幣竹ハ三枝残シ末二枝 | 子テ二度断ツベカラズ | シタル夫ハナスベカラズ又重 | 又幣断ハヤス人ハ妻ノ懐胎月経 | 静粛ニスベシ | 但シ御幣ヲ断ツハヤス中ハ一同 | 成スベカラズ | 御幣ハ必ズ切リハヤス損シヲ | 竹一年子等ヲ用フベカラズ | 御幣竹ハ末止十年子瘤 | 出ズベシ | スルトキニモ珠々ヲ掛ケテ | 他行スルトキ又ハ夜中他出 | 穿ツベカラズ | 履物ハ漫リニ女子ノ物ヲ | キテ頭ヲ置クベシ | 寐ルニハ□度垢離手拭ヲ敷 | 但シ三度ヲ一度ニ取ルベカラズ | 代人ヲ立ツベシ | | | 行中ニ他行ヲナス時ハ | ユベシ |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | -(3) | 南張 | 富士 | 講帳 | 簿の | 翻刻で | 上解詞 | 兑(井 | 上) |
|--------------------------|----------------|----------------|---------|-------------|----------------|---------|------------|--------------|--------|---------------|----------------|-------------|-----------|-------------|-------------|-----------------|-------------|-------------------|----------------|--------------|--------------|-------------|--------------|-----------------|-----------------|---------------|----------|------------------|------------------|----------------|-------------|-------------|
| 之節ハ古山ゟ御酒代割合一 富士山ニ参詣シ節御下向 | 旧列儀定 | 言ヒ渡スベシ | 右ノ通リ新山へ | 離ヲナスベシ | 但シ初日ニハ未明升垢 | リニナスベシ | 離ヲナシ五月晦日ノ通 | 五 其翌々日ヨリ三日間垢 | 挨拶ヲナス事 | 撰シ浅間山ヨリ御寺へ皈宅ノ | 此日新山ノ内ヨリ相当ナル者ヲ | ノ前ニテ新山計リ跳ル事 | 参リ産神へ詣り鳥居 | 跳リヲ済シ下向シ楠宮へ | 浅間山へ詣デ御勉ヲナシ | 四 皈宅ノ日ニハ新山古山共直ニ | 泉区迄出迎ノ事 | 番ノ者二人貝太鼓ヲ持チテ【一二八】 | | | 酒ヲ持チテ至リ内翌年ノ当 | 酒ヲナシ木谷峠迄勤迎ニ | ヲナシ当番ノ家へ集リ御 | 三、皈宅ノ日ニハ古山一同頭垢離 | トル事 | 但シ初日ニハ未明竹垢離ヲ | 先達ノ家へ行事 | 家へ早朝集マリ夫ヨリ | ヲ取リ山差ノ日ニ白衣ヲ着ケ当番ノ | 二、山差ノ三日前ヨリ垢離 | 送ノ事 | 衣ヲ着シ後外道迄見 |
| (白 孤) | | | 但シ蓋附 | 一 什具函一個小田麦一 | 明治廾九年五月十五日寄献ス | 當講社江献贈記 | | | (白紙) | | | 小田久治郎 | 中村関之? | 門順ニナスモノトス | 向日待ヲ為スモノヨリ | 達ヲ問ハズ其ノ年下 | 山差ノ跳リ初メハ先 | 追加條令 | 営番ヲ除クトス | 但シ酒代□□之儀ハ | 起之 | 鈴木楠太郎 | 當番 橋本楠治郎 | 守ルベキ事 | タル者堅ク相 | 右之箇条社員 | | | 漸ク□□□以上 | 一 下向日待之御酒代ハ古山ニ | 一 下向日待之儀定 | □向致べし |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 二二九 | | | | _ | | |
| 明治卅一年五月二十八日退社明治三拾年六月一日退社 | · | 明治廾五年下向日待宿本当番済 | 全上 | 全上 | 明治三拾年六月一日退社 | 全上 | 全上 | 明治二十九年六月一日退社 | | | | 退社 | 明治廾九年六月一日 | 全 | 十六日退社ス | 當番済仝卅八年五月 | 明治廾一年下向日待宿本 | 소 | 全 | 全 | 明治廾八年五月十六日退社 | 明治廾八年現在講社人名 | 記入致置ベシ | 事由及年月日ヲ本人ノ姓名ノ上ニ | ニヨリ退社ノ承認ヲ得タル者ハ其 | 但シ家計上ノ都合其他ノ事故 | ノ上ニ記入スベシ | 終リタル時其退社ノ年次ヲ本人姓名 | 署名シ現在講社員ハ宿本當番ヲ | 新入者ハ其都度餘白ヲ遂テ | 富士講社署名 | |
| 橋本文次郎 | | 大西文太郎 | 西井喜十郎 | 小田楠吉 | 植村源七 | 中村勘松 | 川口楠吉 | 大西善三郎 | 【一三四】 | | | | 川面楠太郎 | 中村勘一 | | 川口勇蔵 | | 正木安吉 | 大西楠蔵 | 小田典之助 | 西井楠平 | | | - | 其 | | | 姓名 | | | | |
| | 明治三十三年五月死亡ニ付退社 | 仝年退社 | 仝年退社 | 仝年退社 | 明治廾八年十一月死亡ニ付退社 | | | | | | 明治卅参年六月一日退社 | | 明治卅年十二月死亡 | | | | 仝 | 仝三十三年六月一日退社 | 明治廾八年下向日待宿本当番済 | 明治廾九年六月死亡時退社 | 仝 | 仝 | 明治参拾参年六月一日退社 | 明治卅二年六月一日退社 | | | | 明治卅二年六月一日退社 | 明治卅二年六月一日退社 | 明治卅一年六月一日退社 | 明治卅二年六月一日退社 | 明治卅二年六月一日退社 |
| 大西善松 | 澤村清松 | 小田英太郎 | 西井徳平 | 正木楠蔵 | 岡村楠吉 | 西尾楠太郎 | 二三六 | | | 西井楠次郎 | 山本與三郎 | 中村勘之 | 正木庄六 | 小田久次郎 | 岩田楠拾 | 小田重平 | 小田楠吾 | | 大西文一 | 小田謇三郎 | 正木庄造 | 大西楠太郎 | 澤村清太郎 | 大西善之助 | 三三五 | | | 小田彦市 | 小田義作 | 鈴木楠太郎 | 川面楠次郎 | 正木楠吉 |

| 紀 | 要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|------------|-------------|--------|--------|--------------|--------------|----------|--------------|--------------|--------------|------------|------------|----------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|--------|---------------|-------------|------------|------------|--------|------------|------------|----------------|------------|--------------|---------------|---------------|-------------|
| 大正弍年四月二日退社 | | | | 退社 | 明治四拾五年四月二日退社 | 明治四拾四年四月二日退社 | 三十八年三月死亡 | 明治四拾四年四月二日退社 | 明治四十三年四月二日退社 | 明治四十二年四月二日退社 | | 仝年五月十二日参詣 | 明治三十四年下向日待番済退社 | 退社 | 明治四拾貳年度退社 | 退社 | 明治四十一年度退社 | 退社 | 明治四十年度退社 | 退社 | 明治卅九年四月二日退社 | 明治卅九年四月二日退社 | | | | 同上 | 同日限退社 | 明治三十八年五月二十八日宿本 | 卅一年五月十一日参詣 | 明治卅一年下向日待当番済 | 明治三十七年五月廾八日退社 | 明治三十七年五月廾八日退社 | |
| 小田楠治郎 | 二三八 | | | 上村□之 | 川面燿平 | 吉田九一 | 小田宮市 | 川口市三郎 | 正木柾治郎 | | | 千田與一郎 | 在 川口彦兵衛 | 大西善兵衛 | 小田直二郎 | 小田楠太郎 | 大西政之 | 小田英二郎 | 岩田市二郎 | 上村源四郎 | 上村楠太郎 | 別当庄右衛門 | 【二三七】 | | | 大西善次郎 | | 川面権右衛門 | | 大西政楠 | 岩田市太郎 | 岡村藤次郎 | 橋本初太郎 |
| 北海道移住 | 大正八年四月二日退社 | 死亡 | 北海道移住 | | 大正七年四月二日退社 | 北海道移住死亡 | 仝 | 下向日待当番 | | 明治四拾参年参詣 | | | 以上 | 大正七年四月二日退社 | | 死亡退社 | 大正六年四月二日退社 | 大正六年四月二日退社 | 大正五年四月二日退社 | 死亡退社 | 大正五年四月二日退社 | 소 | 大正四年四月二日退社 | 大正三年四月二日退社 | 滋賀縣移籍 | 大正三年四月二日退社 | 宇治山田市へ轉籍 | 死亡退社ス | 下向日待當番 | 仝年六月廾貳日 | 明治参拾九年六月八日参詣 | 소 | 仝 |
| 大西政五郎 | 中村庄一 | 大西善四郎 | 澤村西一 | | 正木楠三 | 山本楠平 | 堀尾清右衛門 | 大西□八 | | 二三九 | | | | 別当與十 | | 小田與太郎 | 川口利市 | 川口甚太郎 | 橋本勝治朗 | 中村勘右衛門 | 別當庄次兵衛 | 村田松太郎 | 小田吉平 | 杉浦清一郎 | 小田□三 | 岡村藤三郎 | 籍間宮喜三郎 | 大西政太郎 | 澤村酉松 | | | 西井長平 | 大西善蔵 |
| 仝 | 在北海道 | 仝 | 下向日待當番 | 大正九年参詣 | | | | | | | 仝 | 下向日待当番 | 大正六年参詣 | 北海道移住 | 死亡退社 | | 北海道移住 | | | | 大阪□留 | 北海道移住 | 소 | 下向日待当番 | 大正元年参詣 | | | | 大正十年四月二日退社 | 大阪移住 | | 大正九年四月二日退社 | 大正八年四月二日退社 |
| 大西善雄 | 正木楠蔵 | 川口利良 | 西井喜美夫 | | | | 正木虎一 | 山本嘉一 | 鈴木楠三 | 植村房生 | 川口楠太郎 | 澤村楠二 | | 大西義平 | 正木楠之助 | 大西楠之助 | 小田甚三 | 別當與七 | 中村勘兵衛 | 大西文長 | 大西善三郎 | 小田久光 | 小田保太郎 | 岩田市四郎 | | | | 仝 | | | 仝 | | |
| 雄 | 蔵 | 艮 | 美 夫 | 四二 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 小田甚一 | 堀尾兵四郎 | 正木安太郎 | 大西政一 | 中村辻楠 | 大西善七 |
| 仝 西井隆 | 下向日待当番 西井 | 昭和七年七月廿四日参詣 | | | | 昭和八年四月二日退社 | | | | 昭和五年四月二日退社 | 昭和八年四月二日退社 | 昭和七年四月弐日退社 | | 昭和七年四月弐日退社 | 昭和六年四月弐日退社 | 昭和六年四月弐日退社 | 横輪 | 昭和五年四月二日退社 | 仝 | 下向日待当番 | 大正十四年七月二十一日参詣 | | | 在北海道 | | 소 | 昭和四年四月二日退社 | 소 | 昭和参年四月弐日退社 | 소 | 昭和二年四月二日退社 | 소 | 大正十五年四月二日退社 |
| ·隆 | 西井幸之助 | | | | 橋本又司 | 川面権衛 | 大西善志 | 別當喜志夫 | 中島一生 | 中島一角 | 川口弥一 | 川口正彦 | 正木楠行 | 大西庫司 | 別當正夫 | 川口勇夫 | 西山吉二郎 | 小田楠雄 | 正木梅太郎 | 中村清三郎 | 詣 【一四二】 | | | 植村貞雄 | 小田稔 | 岩田謙一 | 中村寛也 | 小田秘蔵 | 岩田茂一 | 小田喜代三 | 大西善密 | 西井祐吉 | 大西政信 |

| ٠. | 中村官一(口) | 昭和二十四年四月二日宿本山本勝三宅ト共ニ | 植村誠一(イ) | 昭和二十三年四月二日宿本川口忠良宅ト共ニ | 岩田一夫(イ) | 昭和二十二年四月二日宿本正木俊一宅ト共二 | 川口忠良(口) | 昭和二十三年四月二日宿本植村誠一宅ト共ニ | 正木俊一(口) | 昭和二十二年四月二日宿本岩田一夫宅ト共二 | 宿本二軒 川口徳三(ロ) | 昭和二十一年四月二日 小田保一(イ) | 四月二日宿本二軒 別當 博(ロ) | 昭和二十年 正木欽一(イ) | (両名共十九年) 杉浦清也(イ)大西守(ロ) | 仝 川口甚一(口) (白紙) | (昭和十八年四月二日) | 定式祭礼宿本当番 大西善郎 (イ) | " " 山本一郎(口組) (白紙) | (七月廾九日) | 下向日待当番 小田 直(イ組) | 計二十一名 川口一彌(イ) | 昭和拾七年七月二十四日参詣 【一四四】 昭和二十六年四月二日 | | (口) | 大西□□ 昭和二十七年四月二日宿本一軒 | 正木留吉 岩田道夫(ロ) | 別当純吉昭和二十六年四月二日 | 西井小一 岩田元夫(イ) | 堀尾郁治 昭和二十五年四月二日 | 小田□彦 山本勝三(イ) | 植村巌一昭和二十四年四月二日 | 城尾光太郎 桢生勝敏(丘) |
|----|---------|----------------------|---------|----------------------|---------|----------------------|---------|----------------------|---------|----------------------|-------------------|--------------------|------------------|---------------|------------------------|----------------|-------------|-------------------|-------------------|---------|-----------------|------------------|----------------------------------|------|-----|---------------------|--------------|----------------------|--------------|-----------------|--------------|----------------------|-----------------|
| | | | | | | | | | | | | | | | | 【裏表紙】 | | | 【二四五】 | | | | 昭和二十六年四月二日宿本岩田道夫宅ト共ニ | 正木倫三 | | 月二日宿本一軒 大西政千代 | | 昭和二十六年四月二日宿本川口一弥宅ト共ニ | | 月二日宿本柳生勝敏宅ト共ニ | | 昭和二十四年四月二日宿本中村官市宅ト共ニ | |

平成 27 年度 博物館職員

| 館 | 長 | 木。 | ノ内 | 義 | 昭 |
|------|--------|----|------|----|---|
| 主 | 幹 | 芦 | 澤 | 充 | 祥 |
| 主 查 | :(学芸員) | 高 | 林 | 崩 | 子 |
| 主 查 | (学芸員) | 瀧 | 浪 | 和 | 美 |
| 主 查 | :(学芸員) | 井 | 上 | 卓 | 哉 |
| 上席主事 | (学芸員) | 藤 | 村 | 翔 | |
| 主 事 | (学芸員) | 井 | 坂 | 武 | 男 |
| 臨時職員 | (指導員) | 久有 | '呆 田 | 英 | 聖 |
| 臨時職員 | (管理員) | 宇有 | 佐 美 | 和 | 代 |
| 臨時職員 | (事務補助) | 金 | 刺 | 才 | 己 |
| 臨時職員 | (事務補助) | 土 | 屋 | 麻由 | 美 |
| 臨時職員 | (調査員) | Щ | 本 | 倫 | 弘 |

富士山かぐや姫ミュージアム 館報

第 31 号(平成 27 年度)

編集・発行 富士山かぐや姫ミュージアム (富士市立博物館)

〒 417-0061 静岡県富士市伝法 66-2

TEL 0545(21)3380 FAX 0545(21)3398

E-mail: museum@div.city.fuji.shizuoka.jp URL:http://museum.city.fuji.shizuoka.jp

 発 行 日
 平成28年9月30日

 印
 刷
 文光堂印刷株式会社

巻頭図版3

南張富士講書類

南張の富士講に関する史料は 132 点に及ぶ。これらは、「南張富士講書類箱」と記された木箱などに納められており、講の行事の当番である宿本の家で、大切に保管された。講の行事が終わると次の宿本へと引き継ぎがおこなわれた。 【4-(3) 井上報告参照】

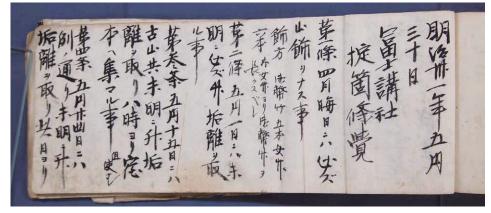


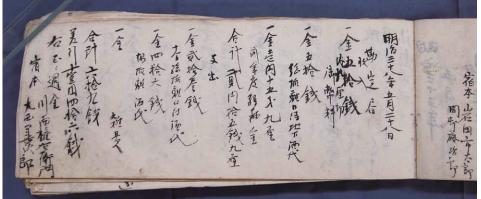
南張富士講帳簿

(右上:規約、右中央:定式祭礼の収支、右下:講員連名簿、下: 表紙)

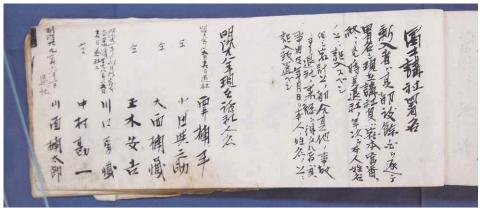
南張の富士講に関わる様々な事項 を書き留めた帳簿。その期間は、 明治28年(1895)から平成20 年(2008)までの113年間にお よんでおり、講の変容の姿を知る ことができる。

【4-(3)井上報告参照】









巻頭図版 2



南張富士講で用いられた富士山 の掛け軸

雪舟に端を発する富士山図の基本形で、駿河湾越しの遠景に三峰の富士、左下には清見寺、右下には三保松原が描かれた掛軸。画面左上には「友閑斎有信七十五歳筆」とある。三重県志摩市浜島町南張地区の富士講における行事(日待)の際に会場に掛けられたもの。平成21年に富士講の人々により表具が新しくされている。

【4-(3)井上報告参照】



掛軸裏面の記載

平成21年に表具を新しくした際に、裏面の記載部分も保存され、新たな表具の裏面に貼り付けられている。そこには、この掛軸はもともと南張の徳林寺で大切に受け継がれてきたものであり、弘化2年(1845)に徳林寺の住職より南張の富士講へと譲られたということが記されている。また、当時の講のメンバー35名の名が記されている。

【4-(3)井上報告参照】



南張の浅間さん

三重県の伊勢・志摩地方では、富士山の本地仏である大日如来を祀る「浅間さん」が、富士山の村山修験の檀廻活動を受けて組織された富士講の人びとにより数多く設けられ、行事の舞台となった。本像は、南張の富士講の人びとに祀られた大日如来(金剛界)で、台座には享保12年(1727)に奉納されたことが刻まれている。なお、現在ではコンクリートの祠に納められているが、すぐ脇には石を組んで作った祠が残されており、かつてはそちらに納められていた。

【4-(3)井上報告参照】

